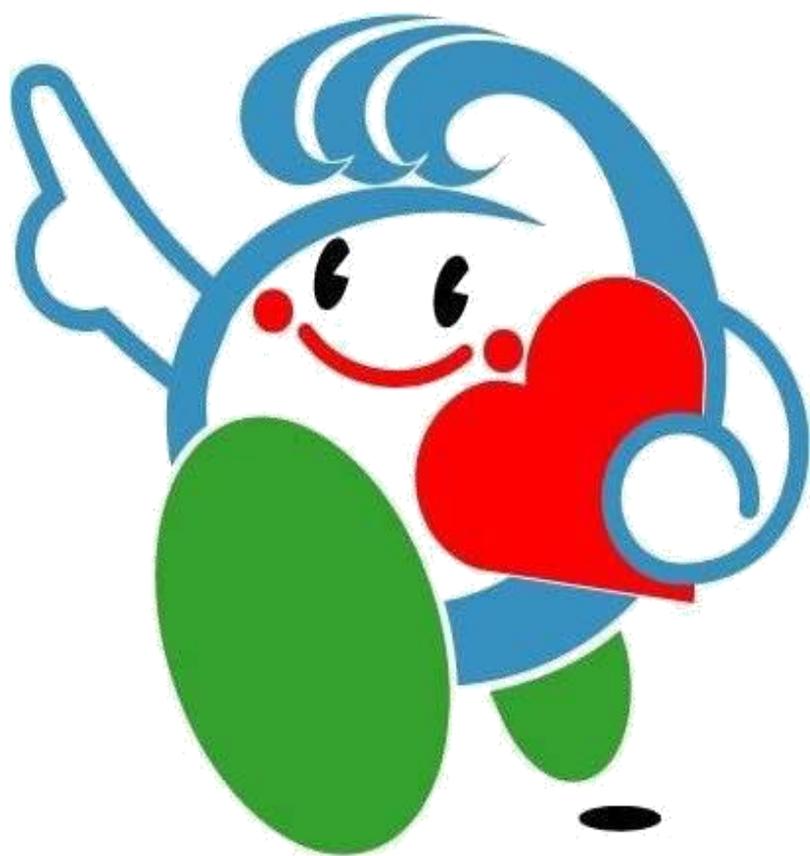


令和4年度事業報告書

みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち

～つなぐ つながる つなぎあう～



南あわじ市社協キャラクター「み～あ」

社会福祉法人南あわじ市社会福祉協議会

目次

活動目標①「自分たちが暮らす地域のことを知ろう」	3
●今ある活動を広く伝えよう 【共同募金配分金・会費】	3
●地域の歴史や活動に興味を持とう	3
●井戸端会議のしやすい環境をつくろう 【善意銀行】	5
活動目標②「お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめよう」	6
●地域で研修会・学習会をすすめよう 【共同募金配分金・会費】	6
●地域で福祉学習をすすめよう	12
活動目標③「地域で活躍できる人を増やそう」	14
●新しい人材を見つけるきっかけづくりをすすめよう 【共同募金配分金】	14
●活動者の交流の輪を広げよう 【共同募金配分金】	15
●生活を支える担い手を増やそう 【善意銀行】	15
活動目標④「誰でも参加できる居場所を増やそう」	17
●その人に合わせた「働く場」を増やそう	17
●同じ思いの人がつながりあえる居場所を増やそう 【共同募金配分金・補助金、受託金】	17
●子どもが気軽に参加できる居場所を増やそう 【共同募金配分金】	19
活動目標⑤「あなたもわたしも自分らしく暮らせるしくみをつくろう」	20
●みんなの権利が守られる共生のまちづくりをすすめよう 【補助金、受託金】	20
●お互いの存在を知り、出会う機会を大切にしよう 【共同募金配分金】	24
●助けたり・助けられたりできる関係を大切にしよう 【共同募金配分金】	24
活動目標⑥「困りごとを受け止めてつないでいけるしくみをつくろう」	26
●包括的な相談支援ができる体制を考えていこう 【補助金・受託金】	26
●困りごとを共有して支え合いを考える場をつくろう	30
●困っている人を見つけたらほっとかない 【会費】	30
活動目標⑦「生活を支えるサービスを充実させよう」	31
●介護や支援が必要な人に必要なサービスが提供できる体制づくりをしよう	31
【自主財源・受託金】	31
●地域で生活を支えるしくみをつくろう 【共同募金配分金】	43
活動目標⑧「災害にも強いつながりづくりをすすめよう」	44
●災害時に対応できるしくみをつくろう	44
●防災について考える機会をつくろう	44
●「支え合い（防災）マップ」づくりに取り組もう 【会費】	45
活動目標⑨「新しい活動を生み出そう」	46
●新しい活動を生み出す話し合いの場をすすめよう 【会費】	46
●さまざまな人・団体との新しいつながりを広げよう	46
●地域の資源や情報を見える形で整理しよう	47
◎「活動をすすめるための組織基盤づくり」	48
●職員の人材確保と育成をすすめます	48
●法人のガバナンス強化（労働環境・法人の価値・収益率）をすすめます	53
●災害時にも対応できる体制づくりをすすめます	59
◎「活動をすすめるための基盤整備と財源確保」	60
●組織の基盤強化をすすめます	60
●財源の確保につとめます	61

令和4年度 南あわじ市社会福祉協議会 事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

○福祉目標

「みんなで考え みんなでつくる 笑顔のまち
～つなぐ・つながる・つなぎあう～」

みんなが安心して生活できる地域づくりのための、第1次地域福祉推進計画から変わることはないスローガンです。住民、団体、行政、社協などが協働し、地域共生社会の実現に向け「誰もほっとかへん！みんなが みんな あんしんして わくわく じぶんらしく」暮らし続けられる南あわじ市を目指していきます。また、第3次計画までに関係機関との「連携」により積み上げてきたつながりを基に、第4次計画では「協働」に向けて取り組みをすすめていきます。

○活動目標

福祉目標をより具体的に実現していくための目標です。住民や行政、関係機関、社協などのそれぞれの役割から、地域福祉の推進に向けた取り組みの方向性を示します。第4次計画では9つの活動目標を設定し、それぞれの目的に応じた活動を推進していきます。

活動目標ごとに、策定委員会や調査で出たキーワードを基に具体的な活動を設定し、社協だけでなく、地域全体で取り組みをすすめていくイメージが持てるよう「みんなですすめること」と「社協ですすめること」を記載し、それぞれの役割で協力しながら、目標に向かってすすめていきます。また、「3. 地域のとらえ方」で示した圏域のうち、どの圏域で活動をすすめていくかということを確認にしました。

活動目標①～③では、地域での支え活動をすすめていくための基礎となる、あいさつや声かけなど、人と人との「つながりづくり」に焦点をあてました。中にはつながることが難しい方もたくさんいることから、つながりをつくっていくための「きっかけづくり」にも力を入れていきます。また、活動目標④では、つながった人たちが働ける場所、出ていける場所、つながれる場所など、誰もが参加できる居場所や活動づくりに取り組みます。活動目標⑤～⑨では一人ひとりの生活を護る権利擁護の視点から、困りごとを受け止め、支えていくためのしくみづくりに取り組んでいきます。

※赤い羽根が付いている活動には、共同募金配分金を活用しています。

活動目標①「自分たちが暮らす地域のことを知ろう」

<活動の目的・ねらい>

地域での助け合い、見守りをすすめる上で、人・場所・活動など、まずは自分たちの住んでいる地域のことを知ることが大切です。地域の人や活動に興味を持ち、知ることができるきっかけづくりをすすめます。

●今ある活動を広く伝えよう 【共同募金配分金・会費】

■広報わかばの発行

発行回数	4回
発行部数	64,000部

※新聞折込による。沼島地区は、出張所を通じて配布。



【年4回発行の広報わかば】

■ボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりの発行

発行回数	12回（毎月）
発行部数	6,000部

地域福祉活動や社協の活動、ボランティアに関する情報を発信しました。毎月発行のボランティアセンターだより・生活支援コーディネーターだよりは公共機関や関係機関、金融窓口に配置いただくなど、活動を広く伝えています。

■ホームページ、Facebookの更新

更新、アップロード回数	18回（毎月）
-------------	---------

●地域の歴史や活動に興味を持とう

■市民交流センターとのネットワークづくり

■地域づくり協議会への参画

■地域単位での会議等への参画

【緑地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 24 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 11 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 7 回 ・老人会等の活動や会議に参加…………… 2 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 10 回 ・福祉連絡会について検討…………… 0 回 	54回
<p>民協、地区自治会、地域づくり協議会が中止になることも少なく、協議の場に積極的に参加することができました。団体によっては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を断念した事業もありましたが、地域住民と顔を合わす機会も多く、継続的な話し合いができ、あらためて話し合いの場の重要性を確認することができました。今後は地域活動が少しずつ活性化していくと予測されるため、より積極的に地域へ出向いていきます。</p>	

【西淡地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 84 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 13 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 3 回 ・老人会等の会議や活動に参加…………… 1 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 5 回 ・福祉連絡会について検討…………… 0 回 	106回
<p>毎月、第2層生活支援コーディネーターと共に各市民交流センターを訪問し、情報共有や地域の情報把握に努めました。引き続き、地域の情報把握を進めるとともに、地域づくり協議会等へ参画できるよう、各種団体・地域住民との関りを増やしていきます。</p>	

【三原地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 120 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 17 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 12 回 ・老人会等の会議や活動に参加…………… 0 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 11 回 ・福祉連絡会について検討…………… 0 回 	160回
<p>榎列倭文地区・八木地区・市地区の地域づくり協議会に委員として参画し、地域の現状を把握・共有しています。コロナ禍で顔の見える関係性が希薄化しつつありましたが、委員として各地区の敬老会や公民館まつりに参加し地域に出向く機会は増えました。今後も、積極的に地域に出向き、地域住民と顔の見える関係づくりに努めます。</p>	

【南淡地域】

内容	回数
<ul style="list-style-type: none"> ・第2層生活支援コーディネーターとともに各市民交流センターを訪問… 72 回 ・民協の会議や活動に参加…………… 24 回 ・自治会の会議や活動に参加…………… 8 回 ・老人会等の会議や活動に参加…………… 0 回 ・地域づくり協議会などの会議に参加…………… 2 回 ・福祉連絡会について検討…………… 0 回 	106回
<p>民生委員の一斉改選があり、多くの単位民協へ参加しました。社協事業の啓発だけではなく、認知症高齢者や、障がい者など地域で気になる方への支援の方法などを共有することができました。新型コロナウイルスによる制限が緩和されたことで、今後ますます協議の場が増えていくことが想定されるため、これまで以上に、積極的に参加していきます。</p>	

●井戸端会議のしやすい環境をつくろう 【善意銀行】

■地域福祉事業助成金の活用と財源の確保

善意銀行については、地域福祉財源として、より一層の有効活用や寄附者の思いを地域に還元できるしくみづくりのために、善意銀行運営要綱と設置規程を設けました。身近な地域で寄附が循環していることを知っていただくことで、財源の確保にもつなげていきます。

活動目標②「お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめよう」

<活動の目的・ねらい>

自分たちの地域に暮らす人のことを知り、自分の思いや考えを伝えるなど、地域を「我が事」として考えていくことが大切です。学校だけでなく、地域や企業でも積極的に福祉学習を取り入れ、お互いを知り、認め合えるきっかけづくりをすすめます。

●地域で研修会・学習会をすすめよう 【共同募金配分金・会費】

【みどり】

新型コロナウイルスの感染状況により、「ぼうさいカフェin緑」は、当初予定していたグループワークを変更し、研修会方式での実施になりました。「みどりふれあい福祉のつどい」は、実行委員会を組織し、感染症予防対策を講じた上で、倭文小学校で実施することができました。あいにくのお天気ではありましたが、予想をはるかに上回り、700人を超える参加者がありました。実行委員として参加いただいた小学校、小学校PTAの積極的な参画により、次世代を担う地域のリーダーや、学校、地域との連携のあり方など、新たな発見につながりました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R4.5.19	第1回 ・新規委員紹介（自治会2名、老人クラブ1名） ・年間計画について ぼうさいカフェ（9月）、みどりふれあい福祉のつどい（11月）に実施予定	18名
R4.6.23	第2回 ・ぼうさいカフェin緑について 9/3（土）広田地区公民館で人数制限をして開催 テーマ「日頃の見守り活動から防災を」	17名
R4.7.21	第3回 ・ぼうさいカフェin緑について 発表：伊加利地区黄色い旗運動、 個別避難計画（危機管理課） ・みどりふれあい福祉のつどいについて	16名
R4.8.18	第4回 ・ぼうさいカフェin緑について 感染予防のためグループワークを中止 ・みどりふれあい福祉のつどい実行委員会について	14名
R4.9.15	第5回 ・赤い羽根共同募金について 今年度の大口募金依頼事業所について確認	14名
R5.3.23	第6回 ・今年度の振り返りについて 支部合同研修会および年間計画の振り返り 次年度の計画について	13名

■みどり支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R4.10.13	<ul style="list-style-type: none"> ・募金協力員の選任について ・令和3年度事業報告、令和4年度事業計画について ・募金活動の推進について ・班編成ならびに事業所訪問 	25名

■みどりふれあい福祉のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R4.9.15	第1回 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設置について ・役員の選任について ・実施計画（案）、予算（案）について 	19名
R4.10.13	第2回 <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画について ・タイムスケジュール、当日の役割分担について ・周知・広報について 	18名
R4.11.17	第3回 <ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュール、当日の役割分担について 前日準備について 当日の準備について 当日の流れおよび役割について ・雨天時の対応について 	19名
R5.1.19	第4回 <ul style="list-style-type: none"> ・みどりふれあい福祉のつどい振り返りについて 	14名

【せいだん】

年間計画に基づき、2ヵ月に1回、運営委員会を開催しています。8月末にささえあい（防災）マップづくり研修、10月末に第10回せいだんふれあい交流のつどい「ささえあいのWA in せいだん」を実施しました。運営委員会では、研修会・支部まつりに向けた協議を行うとともに、地域の情報共有・情報把握にも努めています。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R4.5.12	第1回 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の年間計画について ささえあい（防災）マップづくり研修について 地域の情報共有 	10名
R4.7.7	第2回 <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉推進計画について ささえあい（防災）マップ作り研修について 第10回せいだんふれあい交流のつどいについて 地域の情報共有 	14名
R4.9.8	第3回 <ul style="list-style-type: none"> ささえあい（防災）マップづくり研修の振り返り 第10回せいだんふれあい交流のつどいについて 地域の情報共有 	14名
R4.11.17	第4回 <ul style="list-style-type: none"> 第10回せいだんふれあい交流のつどいの振り返り 支部合同研修について 地域の情報共有 	11名
R5.1.19	第5回 <ul style="list-style-type: none"> 支部合同研修について 地域の情報共有、課題について 	13名
R5.3.23	第6回 <ul style="list-style-type: none"> 支部合同研修の振り返り 次年度の活動計画について 地域の情報共有 	10名

■せいだん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R4.9.8	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の事業計画について 募金活動の推進について 令和4年度の事業所募金について 	14名

■せいだんふれあい交流のつどい実行委員会

月日	内 容	出席者数
R4.9.8	第1回 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の設置について ・監査役員の選出 ・実施内容およびチラシ（案）についての協議 	14名
R4.10.13	第2回 <ul style="list-style-type: none"> ・当日のタイムスケジュールおよび役割分担の確認 ・収支予算（案）について ・地域の情報共有 	14名
R4.11.17	第3回 <ul style="list-style-type: none"> ・第10回せいだんふれあい交流のつどいの振り返り 	11名

【みはら】

年間活動計画に基づき、みはら福祉の集い、みはら支部募金協力委員会、地域内の課題等について協議をしています。

新型コロナウイルスの影響が続く中、「みはら福祉の集い」を「どうしたら開催できるか」について協議をすすめました。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R4.7.13	<ul style="list-style-type: none"> ・支部長、副支部長の選任 ・社会福祉協議会の活動について ・令和4年度の年間計画について 	10名
R4.11.14	<ul style="list-style-type: none"> ・みはら支部募金協力委員会について ・みはら福祉の集いについて 	11名
R5.1.11	<ul style="list-style-type: none"> ・みはら福祉の集いについて 	9名
R5.3.28	<ul style="list-style-type: none"> ・みはら福祉の集いの振り返り ・令和4年度事業報告について ・令和5年度事業計画について 	8名

■みはら支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R4.11.14	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の事業計画について ・募金活動の推進について ・令和4年度の街頭募金について 	11名

【なんだん】

感染症対策を講じた上で「なんだん福祉まつり」を実施することができ、多くの住民が交流する機会となりました。各地区の状況より、少しずつ地域活動が再開されており、住民大会での街頭募金を再開することができました。3月に実施した支部合同研修会にて、防災や地域活動の研修会について参考になったとの意見もあり、次年度の実施に向けて協議を重ねていきます。

■支部運営委員会

月日	内 容	出席者数
R4.5.31	第1回 ・新規委員紹介（自治会3名） ・年間計画について 9月中旬にまちの保健室、11月になんだん福祉まつりを実施 ・各地区の情報交換、夏の行事、コロナ対策など	19名
R4.7.12	第2回 ・福祉と健康の相談室（仮）について なんだん福祉まつりの1ブースとして実施 ・なんだん福祉まつりについて 11月12日（土）賀集地区公民館にて実施 ・各地区の情報交換、敬老会、民生委員活動など	18名
R4.8.30	第3回 ・各地区の情報交換、住民大会の開催状況など 街頭募金活動の予定等についての意見交換	21名
R4.12.20	第4回 ・なんだん福祉まつり振り返りについて 運営上の課題と評価 ・次年度の実施に向けての検討	14名
R5.3.22	第5回 ・今年度の振り返りと次年度計画について 支部合同研修会、年間計画の振り返り ・次年度の計画について ・地域の情報共有について	12名

■なんだん支部募金協力委員会

月日	内 容	出席者数
R4.9.20	・令和3年度事業報告・令和4年度事業計画について ・募金活動の推進について	19名

■なんだん福祉まつり実行委員会

月日	内 容	出席者数
R4.8.30	第1回 <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会長、副委員長、会計監査の選出 ・飲食ブースを控えた実施計画、チラシの配布など周知について ・各地区の情報交換、住民大会、共同募金活動など 	21名
R4.9.20	第2回 <ul style="list-style-type: none"> ・周知、広報について、自治会回覧の方法について ・駐車場の確保など当日運営についての協議 	19名
R4.10.25	第3回 <ul style="list-style-type: none"> ・前日準備について内容、集合時間などを協議 ・当日の役割分担について ・当日の配置図をもとに現場確認 ・雨天時の対応について（室内での実施、中止の判断） 	18名

■各支部まつり 

月日	会場	内 容
R4.10.29	湊地区公民館	第10回せいだんふれあい交流のつどい 「ささえあいのWA in せいだん」 舞台発表、バザー、作業所販売、アンケート
R4.11.12	賀集地区公民館	令和4年度なんだん福祉まつり ステージ発表、お買い物マルシェ、体験ワークショップなど
R4.11.23	倭文小学校	令和4年度みどりふれあい福祉のつどい 舞台コーナー、お楽しみコーナー、お買い物コーナーなど
R5.2.12	榎列公民館	令和4年度みはら福祉の集い 三原志知地区での実践報告 実践報告についてのパネルディスカッション

■支部合同研修会

各支部の取り組みを支部長より発表いただき、「支部運営委員会に参加して良かったこと、印象に残ったこと」や、「他支部の活動で印象に残ったことや聞いてみたいこと」について意見交換会を実施しました。

月日	内 容	出席者数
R5.3.16	①第4次地域福祉推進計画について ②各支部の取り組み報告、情報交換会など ファシリテーター 武庫川女子大学 松端克文 教授 ③地域を越えてのグループワーク	31名

■福祉の出前講座

各地区で展開しているサロンや集いに、講座を手法とし職員が参加しました。地域情報の把握を行い、地区カルテに記入していくことができました。

講座メニュー	具体的な内容	回数
レクリエーション	各地区で開催されているふれあい・いきいきサロンにて、工作や体操等の指導	44回
防災（支え合い）マップづくり	マップ作りなどを通して地域の防災意識の向上を目的に実施	3回
講習その他	サロンで人権ビデオ等を活用し、人権意識や健康意識の向上を目的に実施	7回

■研修会への講師派遣

福祉制度の理解周知や当事者理解をすすめるため、職員を研修会等へ派遣しました。

月 日	研修名	具体的な内容	派遣した職種
R4.5.17	南あわじ市介護支援専門員会	コロナ禍における生活困窮者支援について	主任相談支援専門員
R4.5.24	賀集地区民生委員・協力委員合同研修会	講演「コロナ禍における生活困窮者支援について」	コミュニティワーカー

●地域で福祉学習をすすめよう

■学校での福祉学習

月 日	内 容	学校名
R4.6.30	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	榎列小学校
R4.7.6	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	倭文小学校
R4.7.8	認知症サポーター養成講座、高齢者疑似体験	南淡中学校
R4.7.8	福祉講話「年をとるってどういうこと？」	神代小学校
R4.9.8	車いす体験	広田中学校
R4.9.13	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	倭文小学校
R4.9.27	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	松帆小学校
R4.9.28	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	阿万小学校
R4.9.30	白杖体験・車いす体験・高齢者疑似体験	三原中学校
R4.10.11	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	北阿万小学校
R4.10.12	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	湊小学校
R4.10.14	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	志知小学校
R4.10.17	車いすバスケット等ユニバーサルスポーツ体験	北阿万小学校
R4.10.17	車いすバスケット等ユニバーサルスポーツ体験	倭文小学校
R4.10.24	車いす体験	志知小学校
R4.10.27	高齢者疑似体験	阿万小学校

R4.11.7	車いす体験	辰美小学校
R4.11.18	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	市小学校
R4.11.21	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	市小学校
R4.11.21	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	賀集小学校
R4.11.28	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	湊小学校
R4.11.28	車いす体験	市小学校
R4.12.1	車いす体験	福良小学校
R4.12.6	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	福良小学校
R4.12.14	車いす体験	西淡中学校
R4.12.20	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	榎列小学校
R4.12.20	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	西淡中学校
R5.1.23	災害ボランティアセンターについて	福良小学校
R5.1.30	視覚障がいのある当事者のお話、アイマスク・白杖体験	辰美小学校
R5.2.9	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	松帆小学校
R5.2.22	聴覚障がいのある当事者のお話、手話体験	福良小学校

【福祉学習講師派遣助成事業の活用状況】

対象	件数	助成額
小学校	17 件	207,600 円
中学校	1 件	20,000 円
高等学校	件	円
専門学校	件	円
大学	件	円

■企業・事業所での福祉学習

今年度は、構内でのバリアフリー状況の検討として1社へ車イスの貸し出しを行いました。今後はこうした企業が1社でも増えるよう、当事者の理解を進めるために企業・事業所向けパンフレットを作成するなど周知していきます。

■当事者理解を深める学習

赤い羽根共同募金配分金を講師派遣費用として活用することで、地域・学校での福祉学習の拡充に努めました。今年度は、市内小中学校16校延べ31回実施することができました。認知症サポーター養成講座や、小学校での高齢者疑似体験学習などの機会が増えたほか、実施校、開催数が昨年度より大幅に増加しました。しかしながら地域からの要望は少ない現状もあります。次年度は学校だけではなく、民生委員や自治会などと一緒に学ぶ機会を増やしていきます。

■サマーチャレンジボランティア

第7波の影響により、施設での受け入れが困難な状況となってしまったため実施することができませんでした。ボランティアを希望する学生を地域のイベントや社協事業にマッチングすることができました。今後もボランティアをしたいという学生の思いに寄り添い、実現できるよう受け入れ先との調整を進めていきます。

活動目標③「地域で活躍できる人を増やそう」

<活動の目的・ねらい>

高齢化や人口減少から、地域の担い手不足が大きな課題となっています。住民による地域づくり活動を広げていくためにも、これまでの活動者への支援に加え、新しい層への働きかけや幅広い世代が活動に関われるきっかけづくりをすすめていきます。

●新しい人材を見つけるきっかけづくりをすすめよう 【共同募金配分金】

■ボランティア災害共済加入の手続き

ボランティア活動中の事故に備え、安心して活動が行えるよう「ボランティア・市民活動災害共済」等の加入促進を図りました。

種 別	人（件）数	掛金
兵庫県ボランティア・市民活動災害共済	865 人	433,000 円
兵庫県ボランティア活動等行事用保険	245 件	15,270 円
兵庫県移送サービス交通傷害保険	12 名	6,000 円

■県民ボランタリー活動助成等の広報と活用

広報わかば、ボランティアセンターだよりを通じて助成金情報を周知し、49グループからのエントリー申請を受理しました。ボランティア活動が円滑に行えるように支援していきます。

■ボランティア養成講座

講座の実施が難しい現状を受け、5年ぶりに市内81のボランティアグループを対象としたアンケートを実施しました。アンケートの結果、新型コロナウイルスによる影響で、休止あるいは解散などに悩んだグループが多かったこと、また高齢化やリーダー層の育成は、大きな課題であることがわかりました。

今後ボランティアセンターでは、社会の状況に合わせた、ボランティアの育成、活動紹介、ボランティアのマッチングなど、みなさまと一緒に考えていきたいと思えます。

下半期に予定していた朗読ボランティア養成講座は、新型コロナウイルス感染拡大により5年度上半期に実施することにしました。

■助けられ上手さん講座

コロナの影響で、人との付き合い方や地域のつながり方も大きく変化してきました。あらためて、つながりや支え合い、ご近所での助け合いを考える機会として地域のみなさまと一緒に考える機会として講座を開催しました。

月日	内容	参加者数	場所
R5.2.27	寸劇「助けられ上手って何？」 「助け合い体験ゲーム」による助け合いの疑似体験	31名	中央公民館

■新規ボランティアの発掘

内容
ボランティアセンターだよりを通じて、身近でできるボランティア活動を募集し、新規ボランティアの発掘に努めました。「これならできるかも」と感じて活動につながるきっかけを提案していきます。今後も積極的なボランティア情報の発信に努めます。

■トライやる・ウィークの受け入れ

期間	学校名	人数	活動内容
R4.5.23~5.27	三原中学校	2名	サロン訪問、啓発グッズ作成、なでしこデイサービスセンターでの交流、広報誌作成
R4.9.5~9.9	西淡中学校	5名	交流センター訪問、共同募金資材仕分け、募金箱作成

●活動者の交流の輪を広げよう 【共同募金配分金】

■ボランティア交流会

コロナ禍で一時は活動が停滞していましたが、徐々にボランティアに関する相談等が増えてきています。改めて活動者の思いを聞き取る機会や、活動者同士が意見交換できる場を設けて、交流の機会を増やしていけるよう、取り組んでいきます。

■リーダー交流会

3年ぶりに開催しました。講師を迎え、ユニバーサルスポーツである「卓球バレー」を体験後、グループごとに意見交換をしました。つながりを絶やさないために実践したことなど、今後のサロン活動に活かせる内容となりました。

月日	内容	参加者数	場所
R4.6.29	卓球バレー体験 グループワーク（コロナ前とコロナ後での変化など）	28名	三原健康広場

●生活を支える担い手を増やそう 【善意銀行】

■担い手養成研修

緩和した基準によるサービスの担い手を養成するために始めた研修会です。今年度は、気軽に介護を学べる機会として参加対象者の枠を広げ、高校生も参加しました。

受講生が福祉の仕事を身近に感じ興味をもってもらえるように、また、困ったことがあれば助け合えるような地域づくりをすすめていくことにつながっていくように、今後も地域を支える担い手の育成に努めていきます。

月日	内容	参加者数	場所
R4.7.24 R4.7.31	職務の理解、高齢者などの尊厳の保持、本人や家族とのコミュニケーション、制度理解、自立支援の理解と実践、老化や疾病についての理解と介護予防、チームケア	14名	市役所

■新しい事業への取り組み

内 容
<p>ご近所見守りプロジェクト第1弾として“トマトいきいきプランターファーム”を福良地区本町自治会で試験的に実施しました。玄関先に置いてあるプチトマトを通じて、ご近所同士の会話が生まれ、これまで交流のなかった地域の人との交流にもつながりました。新たな見守りのあり方として、効果を検証し、継続実施に向けた検討を行っていきます。</p>

■おもいやりポイント制度

シニア世代の多種多様な活躍の場の創出を目的に、生涯活躍推進室が「高齢者等元気活躍推進事業」を推進しています。活動者の安全と安心を守るため、ボランティア保険の加入申し込み手続きを行っています。

月日	場所	登録状況	
		内容	登録者数
R4.4.7	沼島交流センター	個別相談会	10名
R4.4.22	市役所	個別相談会	1名
R4.5.24	市役所	個別相談会	0名
R4.6.24	市役所	個別相談会	0名
R4.7.19	市役所	個別相談会	1名
R4.8.30	市役所	個別相談会	0名
R4.9.20	市役所	個別相談会	2名
R4.10.26	市役所	個別相談会	0名
R4.11.8	くつろぎプラザ・シーパ	個別相談会	0名
R4.12.19	市役所	個別相談会	0名
R5.1.24	イオン南淡路店	個別相談会	1名
R5.2.10	中央公民館	個別相談会	0名
R5.3.24	湊公民館	個別相談会・活動発表 R5～更新	30名
R5.3.30	中央公民館	個別相談会	0名

■表彰

受賞者・団体	表彰名・大会等	表彰の内容
平池 啓子 様	ひょうご県民ボランティア活動賞	長年にわたりボランティア活動に積極的に取り組み続けた方・団体
藤江 キヨ卫 様		
西淡CMC 様		

活動目標④「誰でも参加できる居場所を増やそう」

<活動の目的・ねらい>

地域の中で孤立する人をなくすためにも、誰かとつながることができるきっかけづくりや、参加できる居場所が必要です。さまざまな形で参加できる居場所、助け合い活動を広げる居場所を、地域の中に増やしていきましょう。

●その人に合わせた「働く場」を増やそう

■はたらく場の創出

高齢者や障がい者、生活困窮者など属性にとらわれることなく、身近な地域に自己実現できる場があること、誰にも自分に応じた活躍の場があること、地域の中での役割があること、そんな南あわじ市にできるように関係機関との協議を重ねています。

5月に淡路島内3市社協で北海道釧路市に視察研修に行き、中間的就労についての学びを深めました。また職員協議会の業務研究会に行政担当者にも参画いただき、淡路全体で取り組んでいけることを検討する機会をもちました。

また、2月に淡路市で実施されたひきこもり対策推進会議研修会では、釧路社会的企業創造協議会の榎部様のこれまでの実践を多くの職員が学ぶことができました。

●同じ思いの人がつながりあえる居場所を増やそう 【共同募金配分金・補助金、受託金】

■ふれあい・いきいきサロン

誰もが地域で元気に暮らせるように、身近な地域で集える場づくりを推進しています。コロナ禍で集まることに制限がかかった時期を乗り越え、人と人とがつながり合うことを大切に各地域でさまざまなサロンが活動しています。継続した活動が行えるように支援していきます。

【緑エリア】 12か所

【西淡エリア】 26か所

【三原エリア】 13か所

【南淡エリア】 23か所

■つながりサロン

当事者が交流できる場として、定期的を開催していく大切さを実感しています。新型コロナウイルスの影響がある中でも実施できるよう、参加者の意見を聞きながら実施しました。

月日	内容	参加者数	場所
R4.12.11	クリスマス会	8名	中央公民館
R5.3.11	みんな de おしゃべり会	5名	中央公民館

■スポーツ交流教室

障がいのある当事者の方からも「またみんなでスポーツをしたい」との声をいただいています。新型コロナウイルスの影響がある中でも実施できるよう、参加者の意見を聞きながら実施しました。

月日	内容	参加者数	場所
R4.11.27	フットサル交流大会（優勝）	8名	鮎愛館
R5.2.4	南あわじ市卓球バレー交流大会	5名	南あわじ市文化体育館

■音声パソコン教室

視覚障がい者が、パソコン操作やインターネット等を学ぶことで、情報を自ら得て新たな友達とつながることや、当事者が地域で自分らしく暮らすことができるようになることを目指して実施しています。

コロナの感染状況に合わせて予防に取り組みながら継続して実施し、録音や画像の取り込みなど、参加者の意向に沿った内容で趣味に必要なスキルを身につけることができました。

月日	内容	参加者数	場所
R4.4.9	CDへの録音について	8名	中央公民館
R4.5.14	CDへの録音について	8名	中央公民館
R4.6.11	画像保存について	8名	中央公民館
R4.7.23	迷惑メール防止設定について	5名	中央公民館
R4.8.13	休講		
R4.9.10	年賀状ソフト・画像の取り込みについて	5名	中央公民館
R4.10.29	自分のしたい内容について	7名	中央公民館
R4.11.19	自分のしたい内容について・年賀状の作成について	8名	中央公民館
R4.12.17	自分のしたい内容について・年賀状の作成について	7名	中央公民館
R5.1.14	ファイル検索方法・プリンター印刷の方法	8名	中央公民館
R5.2.18	自分のしたい内容について	8名	中央公民館
R5.3.11	点字キーボードの使用について	8名	中央公民館

■よかサークル

保護者や兄弟姉妹同士のつながりづくりに焦点を当てて毎年実施しています。

この企画は高校生や大学生のボランティアにもご協力をいただいております。障がいのある子どもたちや高校生と、大学生のボランティアが交流する機会になっています。そして交流を通して相手の立場になって考えたり、他人を思いやる優しさを育む場にもなっています。また、事業の中で保護者は子どもたちの様子を見ながら、保護者同士で日頃の生活や進路等について語り合う情報交換の場にもなっています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、南淡 B&G 海洋センターでのマリンスポーツのみを計画し準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の急拡大によりやむなく中止としました。

■くらす連絡会

新型コロナウイルスの影響が続き、当事者の方が集まる機会が少なくなりました。そういった状況下でも総合防災訓練には参加し意見交換を行いました。当事者の声を拾い上げ、地域でのくらしを守るため行政や市障害福祉計画、各団体への働きかけをしていきます。

月日	内容	参加者数	場所
R4.11.20	南あわじ市総合防災訓練	13名	神代小学校

■家族会（知的・精神・身体・認知症等）

今年度は、ひょうごセルフヘルプ支援センターが実施した「セルフヘルプ体験型セミナー」に参加し、あらためて当事者団体の意義や当事者性を生かした相談やさまざまな取り組みの必要性を学びました。また、淡路で実施したセミナーではセルフヘルプグループの代表の方が発表をされ、これまで別々に活動してきたグループがつながり合える機会にもなりました。

一方、家族会・当事者団体等へのヒアリング調査の結果として、各団体から会員数の減少や役員の高齢化等の課題が共通して挙げられており、当事者活動を継続していくために必要な支援のあり方を検討していく必要があります。社会福祉事業助成金の活用だけでなく、同じ思いの人たちがつながりあえる貴重な活動を守るように、共に取り組んでいきます。

●子どもが気軽に参加できる居場所を増やそう 【共同募金配分金】

■こどもの居場所応援プロジェクトの推進

<p>取り組みの内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>「あわじユニバーサルスポーツの会」、「架け橋パントリープロジェクト」に助成を行いました。子どもから高齢者、障がい者が一緒にユニバーサルスポーツを楽しむ機会を地域に広げていくことで、障がい理解を深め、地域環境や人との接し方などを考えるきっかけづくりを支援しています。</p> <p>食材の無料配布事業では、生活に困窮している人たちが孤立しないように、いつでも誰でも気軽に立ち寄れる「パントリー(食糧庫)」となるようにプロジェクトを進めています。</p>
------------------------------------	--

活動目標⑤「あなたもわたしも自分らしく暮らせるしくみをつくろう」

<活動の目的・ねらい>

暮らしや考え方の多様化に伴い、生活課題も複雑化、多様化しています。地域の中で孤立する人がないように相談支援のネットワーク強化だけでなく、支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対して、働きかけができるしくみをつくっていく必要があります。

●みんなの権利が守られる共生のまちづくりをすすめよう 【補助金、受託金】

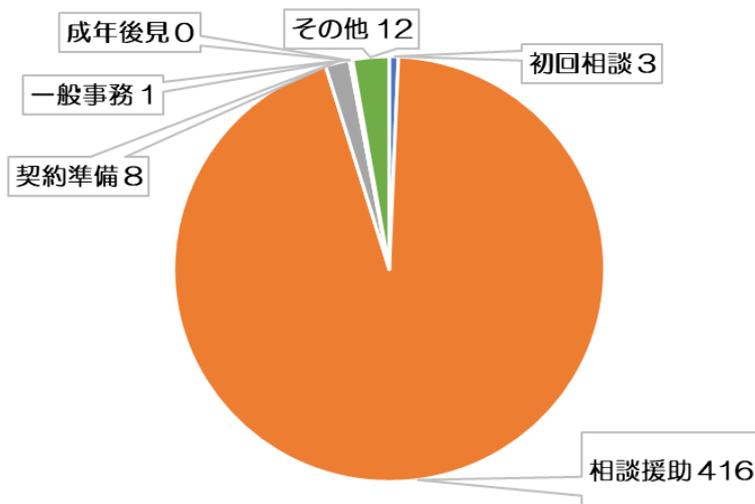
■日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方が地域において自立した生活が送れるよう、支援を行っています。生活困窮者自立支援事業で受けた相談の中には、金銭管理に不安を覚えている方もおり、本事業の利用も検討する等、相談も視野に入れながら、一体的な対応ができるよう支援しています。

初回相談	3	件	新規契約者数	5	人
相談回数	440(411)	件	利用実人数	27(25)	人

() 中数字は前年実績

《相談内容内訳》



初回相談の内訳は認知症高齢者2件、知的障がい者1件、精神障がい者1件で、症状の進行や家族との関係悪化が主な理由でした。

また、利用者からの臨時出金に対する「相談援助」が大半を占めています。表や図には表れていませんが、上半期は利用者の金銭を通じた関係調整(地域や家族等)が多く、下半期は日常生活に関する不安を訴える相談が多くありました。このことから日常的な金銭管理だけでなく、生活全体に密着し、地域生活を支える事業であることが理解できます。

キャッシュレス化による家計管理の課題もより顕著になり、契約行為に対する取消権がある成年後見制度への移行を検討するケースも出てきました。

《対象者別契約者数》

契約者	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
件数	3件	11件	13件	0件	27件

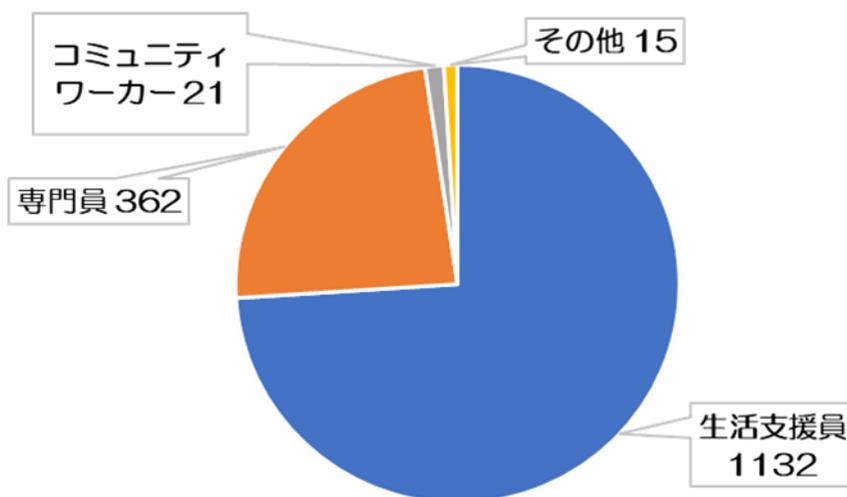
《契約者内訳》



《過去5年間の支援回数》

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延支援回数
R4年度	104	111	109	128	130	129	132	138	119	139	132	136	1,507 回
R3年度	92	84	104	105	104	98	109	96	103	108	118	111	1,232 回
R2年度	52	54	59	63	61	59	64	60	62	53	60	75	722 回
R元年度	60	60	55	65	61	59	65	57	59	55	54	49	699 回
H30年度	39	41	45	49	49	42	44	40	40	54	49	52	544 回

《支援回数内訳》



■生活福祉資金貸付制度・法外小口資金貸付事業

低所得世帯をはじめ、障がいのある方や介護が必要な高齢者等のいる世帯に対して、資金の貸付と民生委員・児童委員が必要な支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲を高めると同時に在宅福祉及び社会参加を促し、世帯が安定した生活を営むことができることを目的として貸付をしています。また、法外小口資金は生活保護受給までの一時的な生活つなぎ資金という名目が大半を占めています。相談時から福祉課と連携を図りながら個々のケースに対応できた一方、地域との関係調整など世帯の自立に向けた連携と協働のあり方を検討していく必要があります。

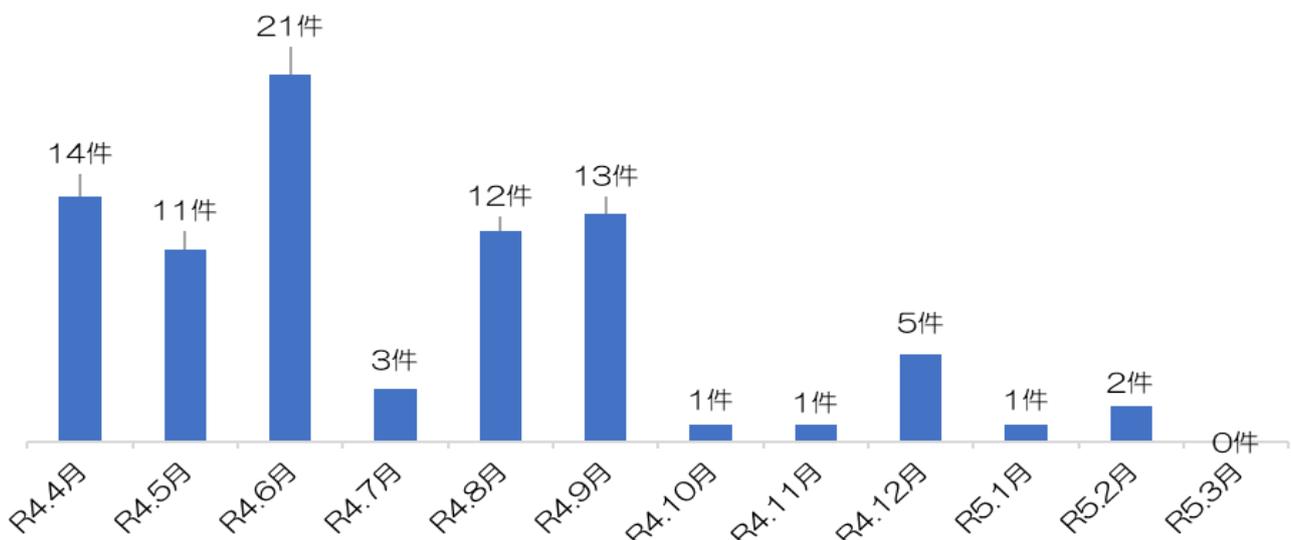
資金種類		R4年度	R3年度	貸付（償還）中の件数
教育支援資金		0	4	87
福	生業を営むために必要な資金	0	0	
	技能を習得するために必要な資金	0	0	
	住宅の増改築や改修のために必要な資金	0	0	
社	福祉用具を購入するために必要な資金	0	0	
	中国残留邦人の年金追納に必要な資金	0	0	
	療養のために必要な資金	1	1	
資	介護・障害福祉サービスに必要な資金	0	0	
	冠婚葬祭に必要な資金	0	0	
	住居の移転等に必要な資金	2	1	
	その他日常生活上一時的に必要な資金	0	4	
金	緊急小口資金	1	0	
総合支援資金		0	0	33
不動産担保型生活資金		0	0	0
要保護世帯向け不動産担保型生活資金		0	0	0
コロナ 特別貸付	緊急小口資金	12	92	236
	総合支援資金 生活支援費	11	70	292

法外小口資金	16 (8)	11 (10)	
--------	--------	---------	--

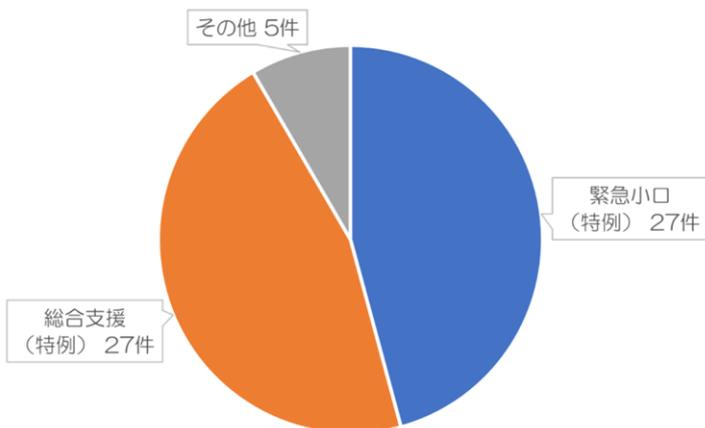
■新型コロナウイルス特例貸付

新型コロナウイルス感染症に伴う支援制度として始まった特例貸付は令和4年9月30日をもって受付が終了となりました。しかし、日本経済は依然とし低迷しており、回復の見通しが立たない状況です。

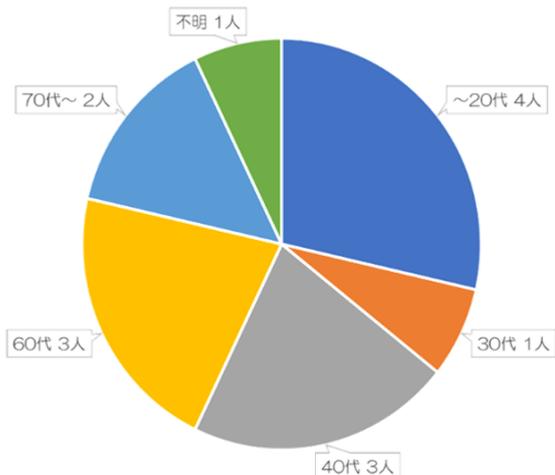
加えて、この間に貸し付けを行った世帯はコロナ禍以前から何かしらの生活課題を抱えていたことがわかりました。引き続き、地域における生活課題の解決や課題を抱える世帯に対して、自立相談機関や生活保護係といった生活困窮の支援者・機関、そして地域住民等と連携・協働した支援を進め、既存の取組みの拡充や新たな活動が展開できるよう取り組んでいきます。



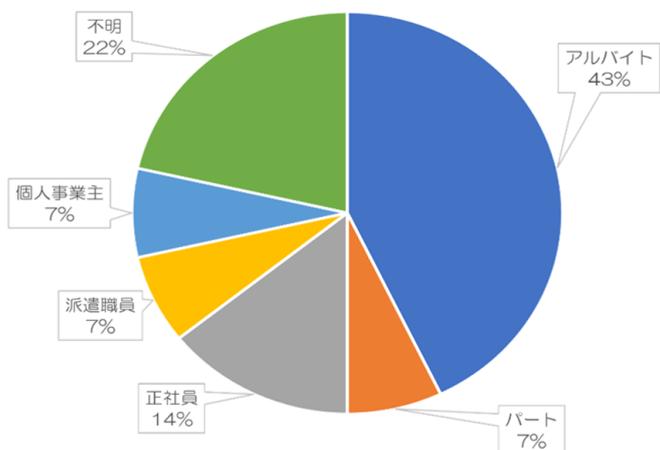
相談区分別



年代別内訳



就業形態別内訳



【上半期】 ※上半期報告再掲

前年度上半期比較では両資金ともに3割減となっており、制度自体が3年目に入り、必要とされた方が借り終わったといえます。

そのため、個人事業主や正職員の申請は大幅に減少し、これまでも一定数申請があった20代から40代のアルバイト、サービス業が多い割合となりました。

この結果を見ると、一番支出が多い世代であるのにも関わらず、社会保障制度の対象とならない労働者がコロナ禍3年目の影響を受けていると分析できます。

【下半期】

新規受付が令和4年9月30日で終了したこともあり、下半期は償還に関する相談支援が10件でした。猶予や免除に関する問合せが主でした(未集計のため、内訳は不明)。

今後は詳細な課題の洗い出しや分析を行い、現状に応じた支援の構築が必要です

■障害者虐待防止センター(南あわじ市障害者権利擁護センター)

障がいのある方の権利を守るため、虐待通報等への対応を行いました。権利侵害されていることに気づいていない方や、言葉で表現することが難しい方など、判断に迷うケースが増えています。正しい対応ができるように、司法の専門職との連携の必要性を感じています。当事者の権利を守る機能を発揮できるように、市の担当者とも検討を重ねています。

《相談・通報者》

本人	家族	事業所	警察	医療機関	その他
0	0	0	1	0	2

《相談・通報者》

身体的	放棄放任	心理的	性的	経済的	その他
2	0	0	1	0	0

※うち令和3年度からの継続対応ケースが1件

■成年後見制度学習会

これまでの相談対応等で総合相談や日常生活自立支援事業では限界を感じる事が多く、法人後見を視野に権利擁護に関する研修に参加しました。加えて、島内で新たに参入した2名の弁護士と連携することができました。今後は、これまでのつながりに加え、新たな協力者と共に市内の権利擁護の体制づくりに取り組んでいきます。

●お互いの存在を知り、出会う機会を大切にしよう 【共同募金配分金】

■人権学習

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	社会教育課と連携し、ふれあい・いきいきサロンでのビデオ学習の支援や、しんけんサマーフェスティバルで「手話サークル三原」による手話体験ブースを設け活動を行いました。 下半期には、福祉まつりで啓発活動を行った地域もあり、人権についてより身近なところで学ぶ機会を設けました。
---------------------------	---

■当事者活動の支援

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	手をつなぐ育成会、身体障害者福祉協会、中途失聴難聴者の会、あわじユニバーサルスポーツの会等から、社会福祉事業助成金配分金事業の申請を受付けています。各団体が抱えている課題等の解決方法を探りながら、活動を続けていくために必要な支援を検討していきます。
---------------------------	--

●助けたり・助けられたりできる関係を大切にしよう 【共同募金配分金】

■まちの電気屋ネットワーク事業

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	生活困窮者や火災などにより、住宅や家財等を失くした方に、電化製品などを提供することで、自立した生活の再建に向けた支援を行っています。市内12店舗の電気屋が登録しており、使わなくなった電化製品の寄付と点検を行っています。 社協が、このネットワークのコーディネートを担っており、 <u>今年度は冷蔵庫他3品目3件を受け入れ、生活困窮世帯など4件に4品目を提供しました。</u> 【登録電気店】 (有)浜野電機、庄司電気商会、喜田電気商会、三和商事(株)、松下電器、辻西電化センター、豊原電気商会、マストでんき、電気の店くろだ、サカベ電器、双葉電化、矢野ミシン電器商会
---------------------------	--

■架け橋パントリープロジェクト【市民プロジェクト】

長期化するコロナ禍で、日々の生活に困窮する世帯が増加していることを受けて、フードバンク淡路島、消費者協会、コープこうべ、福祉課との連携により「食でつなぐ！南あわじの輪！架け橋パントリープロジェクト」を実施しました。取り組むたびに賛同いただく住民の方、企業等も増えてきています。

食材の配布で一時的な支援を行い、希望者には相談窓口を開設し、生活面の相談に応じています。また、住民のニーズを把握するためアンケート調査を実施しています。必要な方に確実に情報が届くよう、特例資金利用世帯、ひとり親世帯等へ郵送で案内しました。

月日	内容・利用者数	場所
R4.8.17	食材の詰め込み作業・精米 (南あわじ市消費者協会・いずみ会)	南あわじ市社協 203会議室
R4.8.22	78世帯の方へ無料で食材セットを配布。 地域の方よりご寄附いただいた日用品等も自由にお持ち帰りいただきました。	
R4.8.23	16世帯の方へ無料で食材セットを配布。 地域の方よりご寄附いただいた日用品等も自由にお持ち帰りいただきました。	
R4.12.12	食材の詰め込み作業・精米 (南あわじ市消費者協会・いずみ会)	
R4.12.16	123世帯の方へ無料で食材セットを配布。 地域の方よりご寄附いただいた日用品等も自由にお持ち帰りいただきました。	
R5.3.10	食材の詰め込み作業・精米 (南あわじ市消費者協会・洲本市社協・淡路市社協)	南あわじ市保健 福祉センター1階
R5.3.20	102世帯の方へ無料で食材セットを配布。 地域の方よりご寄附いただいた日用品等も自由にお持ち帰りいただきました。	南あわじ市社協 203会議室

■生活困窮者等への食材支援

新型コロナウイルス感染症特例貸付相談者や生活困窮世帯、生活保護世帯へ必要に応じて食材を提供しました。

上半期は 22 世帯、下半期は 17 世帯へ合計 61 回の食材支援を行いました。これらの食材は、各種団体のフードドライブから提供されたり、善意銀行へ預託された食材を活用しています。ギャングル依存や家族関係の悪化、生活保護開始までのつなぎによる生活困窮、家計管理が困難な世帯が多くありました。

また、年度内に繰り返し利用された方も一定数おられます。「自立に向けた生活再建への体制づくり」が目的の事業であるため、「回数制限が必要」との意見も出ていますが、生命維持の点で柔軟な対応が必要とされ、日々模索しながらの支援を行っているのが現状です。

※架け橋パントリープロジェクトの食材無料配布とは別の取り組みです。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提供回数	8	8	6	3	9	5	0	4	2	5	4	7	61回 (41)

()中数字は前年度のもの

活動目標⑥「困りごとを受け止めてつないでいけるしくみをつくろう」

<活動の目的・ねらい>

個々の生活課題や、各種団体の課題などを話し合える場が少なく、それぞれで課題を抱え込んでしまっている現状があります。地域で起こっていることに目を向け、課題を整理して解決に向けた取り組みができるように、住民相互の話し合いの機会を増やしていきます。

■庁内ネットワーク会議

取り組みの内容 (成果・課題・今後の方向性等)	新型コロナウイルス感染症による生活への影響が長期化する中で、各関係機関が実施している制度や支援施策について情報を共有しました。お互いにどこにつなげばいいのかを確認し、誰も取り残すことがないように支援体制を整えています。自立相談支援機関で受けた相談傾向・課題や各機関で抱えている事例を共有することで、声なき声を拾い上げる取り組みをどのように広げていくか、また相談者に寄り添い続けることができるしくみも検討しています。 【実施回数：2回】
----------------------------	--

●包括的な相談支援ができる体制を考えていこう 【補助金・受託金】

■生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業：市へ職員1名を出向

今年度の相談傾向として、「新型コロナウイルス感染症」「病気」「家計管理」「債務」「社会的孤立」についての相談が多く寄せられました。上半期は新型コロナウイルス感染症に伴う諸制度についての相談が多かったのですが、下半期は突発的な入院や施設入所費用の捻出、債務が増え生活費の補填を求めて借入の相談が多く寄せられました。

また、職場で解雇通知を受け社員寮を退居せざるを得なくなり住まいや連絡手段を失い、社会的孤立状態になり、預貯金が底をつき相談につながるケースもありました。中には負債を抱え、部屋もゴミ等で散乱し生活困窮状態に慣れてしまい、どこから着手すればいいのかわからず自分で生活を維持する力が低下しセルフネグレクトになっている人も多く見られました。

自立相談支援機関への相談経路の大半が関係者や関係機関からの紹介を通じてであり、相談者が置かれている状況からいち早く脱却するためには早期につながるしくみや相談窓口の周知が必要です。今後も相談者の声なき声を拾い上げ、各課や関係機関と連携し、相談者に寄り添いながら必要な情報を届け続けると共に、必要な支援につなげていく取り組みを行います。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者数	9	14	5	2	10	7	6	8	3	4	4	2	74名 (200)

※（ ）中数字は前年度のもの

《相談者が抱えている問題》※一つのケースで複数の問題を抱えています

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
病 気	障 害 (手帳有)	障 害 (手帳未取得)	メンタルヘルスの課題	住まい・ホームレス	経 済 的 困 窮	(多重・過重)債務	家計管理の課題	就職活動・定着困難	生活習慣の乱れ	社 会 的 孤 立	家 族 関 係 ・ 家 族 の 問 題	介 護	中 卒 ・ 高 校 中 退	ひ と り 親	D V ・ 虐 待	刑 余 者	コミュニケーションが苦手	本人の能力の課題その他	合 計
25	3	4	12	10	69	21	42	36	2	5	18	7	0	6	2	0	4	39	305

《支援内容》

情報提供・相談のみ	他制度・機関につなぐ	同意に向けて取り組む	プラン策定※	スクリーニング前	計
51	23	0	2	0	76

※前年度受付分及び再プランを含む

《地域別相談》

緑	西 淡	三 原	南 淡	島 外
8	16	23	27	0

■基幹相談支援センター【市委託事業】

相談支援事業所からの相談や医療機関からの相談が増えています。支援困難ケースとして、相談支援専門員の後方支援として関わるケース、治療にはつながっているけど福祉につながっていなかったケースへの対応には緊急度に応じながら対応しました。継続して関わり続けることができるよう、相談支援体制を整備していくことが必要です。会議への参画や勉強会、研修会の実施機会も増えており、基幹相談として求められている役割が増えてきています。

《相談対応件数》

対象	実人員		身体障害		重症心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
相談件数	31	5	1	0	0	0	7	2	18	0	0	2	0	0	5	1

《会議への参画》

会議の内容	自立支援協議会 相談支援事業所部会 医療的ケア児等の生活支援検討会事務局会議 医療的ケア児等の生活支援検討会 基幹相談連絡会（三市） 基幹相談支援センター等連絡会議（県） ひきこもり・不登校のための連携会議 南あわじ市委託相談支援事業所連絡会 南あわじ市相談支援事業所連絡会 ケース会議
-------	---

《勉強会・研修会の実施》

内容	兵庫県相談支援初任者研修（事前打ち合わせ、ファシリテーター） 兵庫県相談支援現任者研修（事前打ち合わせ、ファシリテーター） 医療的ケア児等コーディネーター養成研修（事前打ち合わせ、ファシリテーター） 相談支援従事者初任者研修受講者へのフォローアップ 医療的ケア児等の生活支援検討会研修 相談支援事業所部会研修会 事例検討会 障害者理解促進研修（ファシリテーター）
----	--

■総合相談

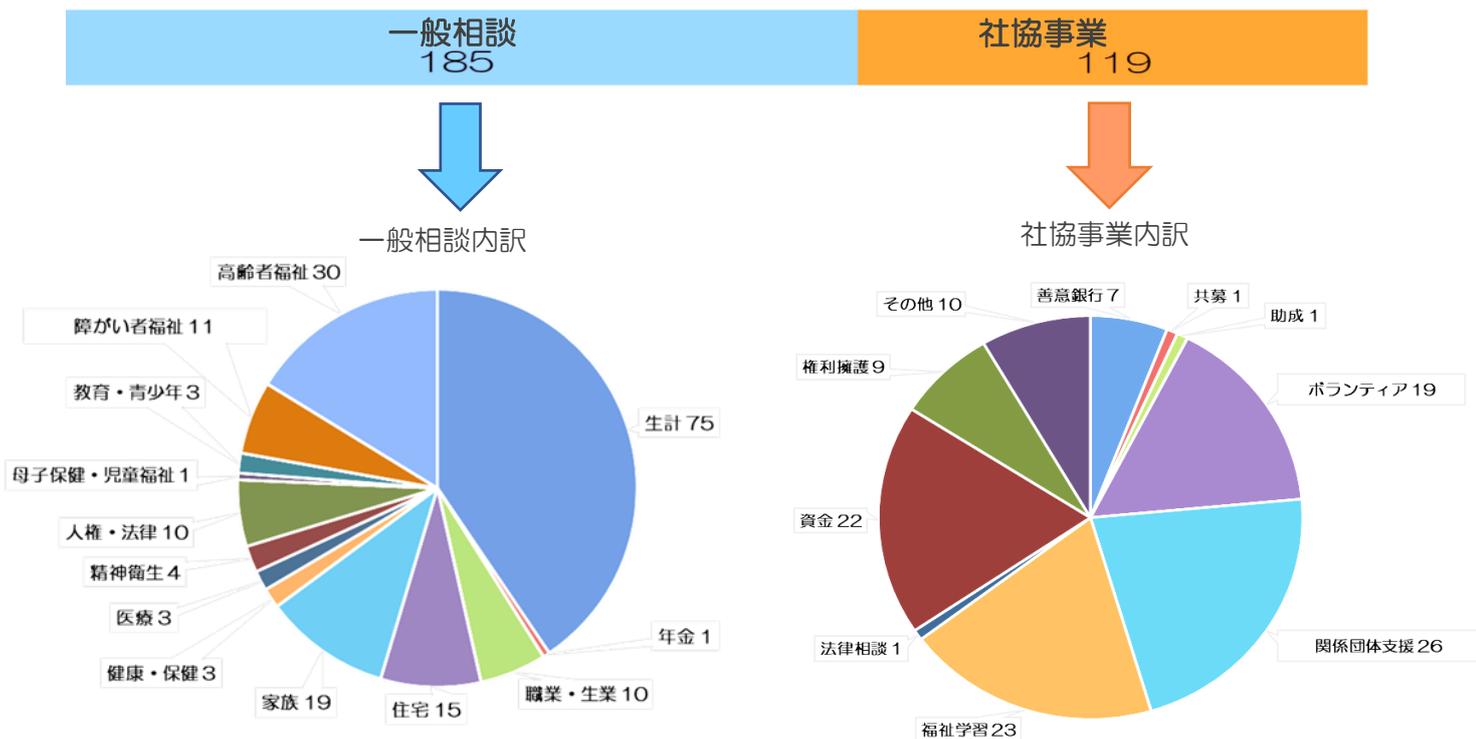
社協に寄せられるすべての相談を、生活の困りごと全般に関する「一般相談」と、ボランティア、福祉学習等、社協に関する「社協事業の相談」に分類し、相談内容を分析しました。

「相談内容」、「エリア別」は前年度と同様の傾向が見られ、「生計」に関する相談が変わらず、約半数を占めました。

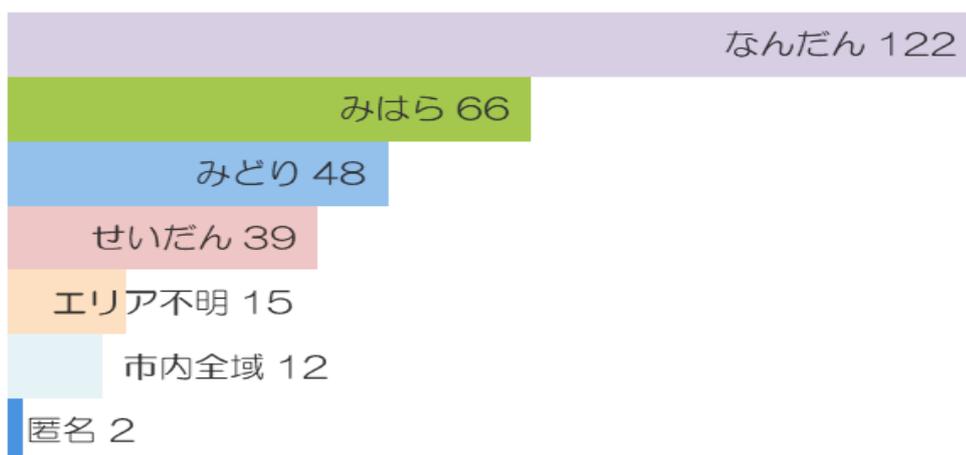
相談経路は「本人」からの相談が最も多い傾向は変わらずですが、前年度からは下がっており、「家族」、「他機関」からの相談は増加しました。

相談の背景には症状や障がいから生じる理解不足やコミュニケーション不足があり、かつ、相談者の多くが担当のケアマネジャーや相談支援専門員がいることから、「家族」に関する相談は制度で対応できるものでなく、「身近な相談先づくり」といった地域のエンパワメントを推進していくことが社協に求められています。

社協事業では、「ボランティア」、「関係団体支援」、「福祉学習」の項目が相談内容、解決・つなぎ先と共に増加しています。活動自粛を機に終了した地域サロンも出ましたが、その期間を経たことで、身近な地域とつながることの必要性を再認識する機会となり、様々な活動再開につながったと分析しています。



エリア別相談内訳



※効果的に分析を行うため、今年度は「コロナ特例貸付」や「日常生活自立支援事業」の利用者からの相談は含めていません。

《相談経路》

相談者	本人	家族	地域	社協	市役所	他機関	その他	合計
件数	145	23	54	7	25	43	7	304件

解決	80	→	コミュニティワーカー、生活支援COの活動	27
社協による相談の継続・支援	143		ボランティア活動の紹介、助成等	15
他機関等の紹介、引き継ぎ	75		講座、物品貸し出し等地域支援活動	4
その他	6		福祉学習支援	18
↓			社協内での調整	20
地域	17		生活福祉資金	13
市役所	36		食料支援	10
他機関	22		法律相談等権利擁護	5
その他	6		その他	31

■社会福祉法人連絡協議会：ほっとかへんネット

「誰もほっとかへん」孤立する人がないまちづくりを進めるため、市内 11 法人が地域課題の解決に向けた検討を行っています。社会福祉法人の強みを生かした支援体制を構築できるように活動を続けています。

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	<ul style="list-style-type: none"> ・実務担当者会の開催 ・推進会議の開催 ・研修会の実施 ・他市からの視察研修の受け入れ、研修会での実践報告 ・研修会の企画と参加呼びかけ 地域課題に向き合いながら、新たな活動を生みだしていけるように地域貢献のあり方を協議しています。今年度は、兵庫DWAT登録者向けの研修会に参加したほか、長期休暇中の小学生を対象に勉強会の実施や、困窮者支援の一環として物品支援ネットワークを立ち上げました。
---------------------------	---

●困りごとを共有して支え合いを考える場をつくろう

■旧小学校区を基盤にした話し合いの場

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性 等)	地域づくり協議会が設置されたことにより、公民館を中心とした活動が活発化しています。また地域ケア会議は定期的を開催され旧町単位の困難事例等を共有しています。 地域ケア会議や話す会(座談会)で解決できないケース(課題)について、地域づくり協議会などと連携し住民が主体となって地域の課題を解決していけるネットワークづくりをめざします。
-----------------------------------	---

■住民と協議できる地域ケア会議

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性 等)	旧町単位ごとに毎月1回地域ケア会議に参加し、その地域で抱える高齢者等のケースについて検討しています。支援困難事例等を共有して、関係者のネットワークづくり、個別ケースを通じての地域の課題の把握を行っています。
-----------------------------------	---

●困っている人を見つけたらほっとかない 【会費】

■はなす会(座談会)

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性 等)	5月に伊加利地区で互近所推進(見守り)会議の中で、支え合いマップづくりを行いました。日常の見守り活動が災害時の見守りへつながるよう、せいだん支部運営委員会ではマップづくりの体験会を実施し、みどり支部運営委員会では「ぼうさいカフェin緑」にて伊加利地区の活動を発表しました。こうした研修会を重ね、地域で話し合う「はなす会」へとつなげていきます。
-----------------------------------	---

■自治会との協働

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性 等)	せいだん津井地区で民生委員を通じて孤独死を防ぐ取り組みについて相談があり、自治会長、民生委員、地域包括支援センター等と意見交換を行いました。具体的な事業立上げの検討までは至りませんでしたが、関係性づくりのきっかけとなりました。
-----------------------------------	---

■民生委員・児童委員協議会との協働

取り組み内容 (成果・課題・ 今後の方向性 等)	毎月、定期的で開催される旧町単位ごとの民生委員・児童委員協議会役員会に出席し、顔の見える関係性をつくるとともに地域の課題や個別の困難事例等を共有・検討しています。つながることで、民生委員から相談が多く寄せられ、緊急対応や福祉サービスへのつなぎなど連携がスムーズ行われるようになりました。 今後も民生委員から寄せられる地域の課題を一緒に解決していけるよう関係性づくりを行っています。
-----------------------------------	---

活動目標⑦「生活を支えるサービスを充実させよう」

<活動の目的・ねらい>

8050問題やひきこもり、生活困窮などこれまで以上にさまざまな生きづらさを抱えた人や福祉課題を抱える家庭が増えています。介護や支援が必要な人に必要なサービスが届くよう、また、制度だけでなくニーズに応じた生活支援サービスの開発に取り組みます。

●介護や支援が必要な人に必要なサービスが提供できる体制づくりをしよう

【自主財源・受託金】

■居宅介護支援事業所

令和4年度はデスクワークの効率化と、ケアマネジメントの質の向上に努めました。

デスクワークの効率化においては、今まで手書きで記入する書類の様式が多かったため、統一書式を作成してパソコン入力へ変更しました。また、データ上でのやり取りをすることで情報をまとめやすくなりました。他にも、改善できることは行い、作業の効率化に繋がりました。今後も生産性の向上（業務改善）に取り組んでいきます。

ケアマネジメントの質の向上では、職員それぞれが経験年数を重ねてきているからこそ、改めてケアマネジメント技術の基礎を学ぶための研修を行いました。令和5年度も継続して、ケアマネジメントの質の向上に向けて取り組んでいきます。

《ケアプラン作成件数》

要支援1の方が更新や区分変更申請により介護度が上がったたり、長年に渡り関わっているケースが、加齢と共に介護度が高くなる傾向にありました。

また、医療的な支援が必要な状態で退院し、自宅での生活を希望される方が増えています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比	
利用者数	158	158	161	156	151	150	158	151	153	147	147	150	1,840 (1,905)	96.6%	
要介護度別利用者内訳	支援1	30	32	33	29	26	26	28	26	27	25	23	26	331 (433)	76.4%
	支援2	38	37	38	35	35	37	37	38	41	39	39	40	454 (414)	109.7%
	1	46	43	41	44	45	42	38	36	34	33	36	33	471 (533)	88.4%
	2	23	24	27	25	24	25	28	29	29	27	28	30	319 (261)	122.2%
	3	13	13	13	14	13	13	19	13	13	14	14	14	166 (154)	107.8%
	4	7	8	8	8	7	6	6	7	7	7	6	6	83 (78)	106.4%
5	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	16 (32)	50%	

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《新規契約件数》

依頼経路は、窓口・電話が9件、地域住民の方からつながったケースが2件、利用中の利用者・家族からの依頼が7件、以前利用していた利用者の家族からの依頼が6件ありました。

また、支援から介護になった方が9名、介護から支援になった方が4名あり、新規ケースとして上がっています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
総合事業	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	5 (2)
介護予防	1	1	1	1	1	1	1	0	4	0	0	3	14 (4)
介護	4	2	3	4	3	1	3	2	4	2	5	1	34 (27)
計	5	4	4	5	4	2	6	2	8	2	5	6	53 (15)

《解約件数》

死亡による解約は13件あり、うち急逝が7件、ターミナル期が2件でした。

施設入所による解約は6件あり、うち特養が2件、老健が3件、介護医療院が1件でした。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（件）
総合事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)
介護予防	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4 (4)
介護	3	1	0	2	1	1	2	0	4	4	2	2	22 (15)
計	3	2	0	4	1	1	2	1	4	4	2	2	26 (15)

※合計欄下段（ ）中の数字は、前年度のもの

《ケアマネ1名あたり取扱い件数》

{要介護利用者数+（介護予防利用者数×1/2）} ÷職員数（常勤換算）

※総合事業のみ利用の利用者は含めない

1人40件まで担当できますが、実際に受け持っている実件数も鑑みながら、職員の配置について、検討していきます。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
件数	27.44	27.32	27.32	27.32	26.97	26.39	33.63	33.63	33.93	32.73	33.64	33.63	30.33件
職員数 (常勤換算)	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.8名

《要介護認定調査件数》

要介護認定期間が延長されたことで、更新申請の件数が減少しています。

2月・3月は市から調査依頼はありませんでした。市外から2件依頼がありました。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
調査数	2	3	3	3	3	0	1	3	4	3	0	0	25 (29)

※合計欄下段()中の数字は、前年度のもの

■訪問介護事業所

令和4年度は、全職員に内部研修や外部研修で学びたいことをアンケートで聞き取り、それらを基に年間の研修計画を立てました。

また、今までは訪問介護の仕事の特性から、積極的な外部研修の受講が難しい状況にありましたが、オンライン開催の研修が増えて参加しやすくなったことで、常勤職員全員が外部研修を受講することができました。令和5年度も、職員が学びたいことを基本に研修の企画や受講ができるように努めます。

《新型コロナウイルス感染症に関すること》

・職員(陽性)

8月:2名、9月:1名、11月~12月:1名、1月:2名

・職員(濃厚接触者)

8月:2名、12月:1名、1月:2名

・利用者(陽性)

8月:2名、9月:1名、12月:1名、1月:3名

職員が陽性になり、7~10日間休みになるも、調整しながら訪問に行くことができました。

利用者が陽性になった場合は、訪問は休みになりますが、独居で認知症のある方1名と、別居家族も同期間に陽性となり家族による支援が困難となった方1名については、療養期間も訪問しました。

令和5年度は、これまでのコロナ禍で経験したこと、取り組んできたことを基に、感染症発生時のBCP策定に取り組みます。

○介護保険サービス

《訪問回数》

利用実人数は前年度並みですが、訪問回数は前年度より567件減少しています。

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	683	709	733	748	709	685	719	698	696	601	589	715	8,285
令和3年度	724	802	842	760	716	694	704	734	723	690	693	770	8,852

《要支援・要介護度別利用状況》

年間利用者数は前年度並みですが、入院等により月別に利用人数の差が見られます。

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	11	12	12	12	13	13	13	13	13	12	12	12	148 (163)
要支援2	19	19	18	18	16	19	17	18	18	16	15	16	209 (191)
要介護1	14	14	15	15	16	15	14	14	13	12	13	13	168 (221)
要介護2	10	9	9	9	10	11	13	12	10	9	9	9	120 (110)
要介護3	4	5	6	7	6	6	6	6	6	6	8	9	75 (61)
要介護4	5	5	6	6	6	5	7	5	4	4	4	4	61 (45)
要介護5	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	2	2	21 (15)
計	64	65	67	68	68	70	72	71	67	62	63	65	802
令和3年度	70	70	71	69	65	68	65	68	63	64	67	66	806

《新規利用状況》

今まで依頼がなかった事業所からの新規ケースの依頼が3件ありました。

(社協：7件、包括：3件、他10件)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1		1	1	1	1			1				1	6 (2)
要支援2	1												1 (5)
要介護1			1				1					1	3 (4)
要介護2			1		1					1			3 (1)
要介護3	1			1							1	1	4 (0)
要介護4	1		1				1						3 (2)
要介護5													0 (1)
計	3	1	4	2	2	0	2	1	0	1	1	3	20
令和3年度	1	1	3	0	1	1	0	2	1	2	3	0	15

《利用終了状況》

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援		1					1					1	3
要介護	2			1			1	5	3	1		1	14
計	2	1	0	1	0	0	2	5	3	1	0	2	17
令和3年度	1	1	3	0	1	1	0	2	1	2	3	0	15

《解約理由》

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
死亡	1	1					2	1		1			6
特養入所													0
老健入所				1									1
入院								2	1			2	5
ロングショート利用	1												1
その他								2	2				4

その他の理由：家族による介護が可能になったため、デイへの移行（入浴）、障がい福祉サービスへの移行、支援が入ることで家族への負担増加になったため

《入院状況》

骨折5名、肺炎・誤嚥性肺炎3名、尿路感染症2名、持病によるもの8名

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	2	3	7	4	3	2	1	1	1	2	2	2	30
要介護	1	2	1	0	5	3	5	4	3	4	4	4	36

《地域別契約状況》（令和5年3月31日現在）

緑	8	件
西淡	17	件
三原	23	件
南淡	22	件
計	70	件

《居宅介護支援事業所別 依頼状況》（令和5年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	41	件	G（三原）	1	件
A（緑）	2	件	H（三原）	2	件
B（緑）	4	件	I（南淡）	1	件
C（三原）	2	件	J（南淡）	2	件
D（三原）	1	件	南あわじ市地域包括支援センター	4	件
E（三原）	9	件			
F（三原）	1	件	計	70	件

○障がい福祉サービス

《訪問回数》

年間利用者数・訪問回数とも増加しており、収入の増加につながっています。

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和4年度	547	589	574	594	604	562	571	563	572	523	544	618	6,861
令和3年度	484	541	581	576	561	559	560	557	570	530	524	611	6,654

《障がい支援区分別利用状況》

年間利用者数は増加傾向にあります。

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分2	13	14	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	
区分3	14	15	15	15	16	14	12	13	14	14	15	15	
区分4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
区分5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
区分6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
計	35	38	37	37	38	36	34	35	37	37	38	38	440
令和3年度	35	35	35	35	35	35	35	36	36	36	36	37	426

《契約・休止・入院・終了状況》

新規契約数は前年度並みでした。

終了：自立2名、入所1名、死亡1名、家族による支援が可能になったため1名。

区分 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約	1	1			1				1		1		5
休止	2	1				2	2						7
再開		1						1					2
入院	1					1	2	2	1		2	1	10
終了		1	1		1			1				1	5

《地域別契約状況》（令和5年3月31日現在）

緑	3	件
西淡	6	件
三原	16	件
南淡	13	件
計	38	件

《相談支援事業所別 依頼状況》（令和5年3月31日現在）

南あわじ市社会福祉協議会	29	件
A（三原）	2	件
B（三原）	2	件
C（洲本）	3	件
D（洲本）	2	件
計	38	件

○居宅生活支援事業

毎月定期利用している2名のうち1名の方は、週2回朝・昼と支援をしています。9月以降、家族による支援が可能な日は対応することになり、利用回数が減少しています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比
利用者数		3	3	4	5	3	2	2	4	4	3	4	3	40 (37)	108.1%
移動支援	延人数	17	16	13	16	12	7	7	6	7	10	9	14	134 (203)	66%
通所・通学支援	延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)	-

■相談支援事業所【委託相談】

障がいのある方の日常生活に関するさまざまな問題に対して相談支援を行っています。相談傾向をみると、昨年に比べ、「保育・教育に関する支援」の割合が大きく増えています。特に、就園や就学を見据えて、保護者のみならず、関係機関から相談に至るケースも増えています。

また、サービス利用についての相談や、障害理解についての相談も昨年より多く、計画相談が終了した方からの生活に関する相談も多くあり、切れ目のない支援が提供できるよう努めました。

《過去5年間の相談者数》

対象	実人員		身体障害		重症 心身障害		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳 機能障害		その他	
	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児
R4年度	143	104	15	2	0	9	32	17	81	0	16	33	0	0	5	46
R3年度	59	31	3	2	0	0	16	7	30	1	11	11	0	0	0	12
R2年度	45	18	4	2	2	1	14	4	19	0	8	6	0	0	3	7
R元年度	80	34	6	3	0	1	21	8	38	0	11	10	2	0	6	15

福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に参加する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
236	109	107	99	138	107	33	51	38	17	2	24	961
111	46	65	135	38	118	17	75	26	1	2	21	655

※下段数字は、前年度のもの

■障害者虐待防止センター【市委託事業】

名称	開設日	時間
南あわじ市障害者権利擁護センター	月曜日～金曜日	8時30分～17時15分 ※電話相談は24時間対応

《相談・通報者》

本人	家族	事業所	警察	医療機関	その他
0	0	0	0	1	7

《内容》

身体的	放棄放任	心理的	性的	経済的	その他
8	0	2	0	0	3

■相談支援事業所【計画相談支援・障害児相談支援】

《計画相談》

障害福祉サービスの利用を希望している方を対象に、相談支援を行っています。利用者によってモニタリング期間が違っているため、月ごとの件数にばらつきがあります。サービスを希望するものの、利用に至らなかったり、続けられなかったりすることもあるため、サービスにつなげるだけでなく、個別性を重視したケアマネジメントが求められます。

就労継続支援 A 型の利用を希望される方の新規相談が多く見られましたが、続けての就労ができないことが多く、すぐにサービス終了になる方や、島外の事業所利用を希望され相談支援事業所の引継ぎを行った方も多くいらっしゃいました。今後も、関係機関とより連携したケアマネジメントが求められます。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	R4年度	54	66	53	56	74	55	58	60	46	50	53	44	669
	R3年度	52	58	51	47	58	57	63	61	52	58	64	51	672

《児童相談》

発達に心配のあるお子さんの相談支援を行っています。手帳を持っていない未診断のお子さんのケースや、親子ともに支援が必要なケースがあります。お子さんのライフステージに応じた支援機関につなぎ、連携をとりながら支援をすすめています。

従来までの就園や就学についての相談のみならず、学校や保育園から保護者の方に療育のすすめをすることが最近では多くみられ、新規の相談につながるが多くなっています。

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	R4年度	33	35	30	37	36	36	26	41	35	29	36	48	422
	R3年度	37	25	28	36	30	36	35	37	37	30	34	48	413

《地域移行支援》【事業収入(地域移行支援サービス費)】

入所施設に入所している障がい者、又は精神科病院に入院している精神障がい者について、住居の確保その他、地域における生活に移行するための活動に関する相談、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援等行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

《地域定着支援》【事業収入(地域定着支援サービス費)】

居宅で単身生活を送る障がい者が対象で、24時間365日住み慣れた地域で生活できるように、日常生活全般に支援を行うものです。

現在、契約中のケースはありません。

■なでしこデイサービスセンター【生活介護】

令和4年度は、臨時休所した日数が計9日間あり(うち1日は台風のため)、収入に大きく影響しました。新型コロナウイルスが5類になることで状況も変わってきますが、感染拡大を防ぎながら可能な限り営業をしていきます。

ショートステイの利用で長期間休む方など、前もって分かっている空きに対し、空き情報を利用者にも周知するようにしました。今後も継続し、稼働率・収入の増加へ繋げていきます。

物価高騰により、水熱費・ガソリン代・食材費の費用増加が課題となっています。サービスの質を落とさないようにしながら、出来る限りの経費削減を図っていきます。

《新型コロナウイルス感染症に関すること》

8月中旬より、職員全員、定期抗原検査を実施し、安心して運営ができるよう努めています。陽性者、濃厚接触者の発生により、事業所を休所等することがありましたが、日々の感染対策によりクラスターを発生させることを防ぐことができました。

・職員(陽性)

11月: 1名

・利用者(陽性)

7月: 1名、8月: 1名、9月: 3名、11月: 1名、1月: 1名

・利用者(濃厚接触者)

5月: 1名、9月: 4名

・休所した日(計8日間)

5月27日、7月7日、8月18日~19日、8月22日、11月8~9日、1月10日

・規模を縮小して営業した日

1月9日、1月11日

《登録状況》

あわじ特別支援学校を卒業した方1名を新規で契約しました。

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	計
男性	5	6	11
女性	4	6	10

新規	1
中止	0
終了	0

《障害支援区分の状況》

区分 利用者数	支援区分3	支援区分4	支援区分5	支援区分6	計	平均支援区分
男性	0	2	1	8	11	5.5
女性	0	2	3	5	10	5.3

《月別利用状況》

前年度より稼働率は減少しましたが、目標である90%以上は達成できました。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	21	19	22	20	18	21	20	18	20	19	20	22	240 (246)
実人数	21	21	21	21	20	20	21	21	20	20	20	21	20.58人 (20.08)
延べ利用者数	196	173	212	181	149	192	186	167	184	141	180	205	2166 (2,245)
今年度 稼働率 (%)	93.9	91.1	96.4	90.5	82.8	91.4	93.0	92.8	92.0	74.2	90.0	93.2	90.3
前年度 稼働率 (%)	95.0	91.1	94.1	96.2	87.1	90.5	92.4	99.0	96.0	77.5	86.5	88.7	91.2

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《曜日別利用登録数》 1日定員10名

1日定員10名ですが、毎週の利用ではない方がいるため、そのことを勘案して登録が11名の曜日があります。減算とならないよう、調整しながら受け入れをしています。水曜日は登録9名ですが、減算対策があるため、現状で新規の受け入れは難しい状態です。

年度	月	火	水	木	金
令和4年度	11	11	9	10	11
令和3年度	10	11	9	10	11

《レクリエーション・行事》

コロナ前のように外出レクリエーションを年2回実施できました。以前より課題であった余暇時間の過ごし方について、ミニレクリエーションを行うことで改善が図れています。

月	内容	月	内容
4月	お花見	10月	外出(買い物)
5月	外出(ふれあい公園)・野菜植え	11月	外出(買い物)・おやつ作り
6月	工作(マグネット作り)	12月	クリスマス会
7月	おやつ作り	1月	工作(絵馬作り)
8月		2月	節分(豆まき)・おやつ作り
9月	ミニ夏祭り	3月	花壇作り(瓦への絵付け)

■なでしこデイサービスセンター【児童発達支援・放課後等デイサービス】

【児童発達支援・放課後等デイサービス全体総括】

新型コロナウイルス関連の理由で利用中止になったケースが多く、稼働率は 2.7%、報酬は 0.1% 減でした。稼働率の低下に対して全体報酬が微減だったのは、2 名が公認心理師資格を取得し、4 月から福祉専門職員配置加算（I）を算定できたこと、10 月から 2.0%の福祉・介護職員等ベースアップ加算が算定できたことによるものです。

事業所内感染予防対策として、8 月から職員の定期抗原検査を開始。複数の事業所がクラスターで休所する中、コロナ陽性者から内部感染することなく事業実施することができました。

懸案事項だった児童発達支援管理責任者の育成についても 1 名が基礎研修を受講し、3 年後には独り立ちできる目処が立ちました。

【児童発達支援・放課後等デイサービス全体課題】

- ①「アプリケーション・ソフトウェア」を有効活用し支援の幅を広げます。
- ②「WISC-V」や「WAVES」の検査スキルを高め、的確に子どもを見立てられるようにします。
- ③令和 7 年度からペアレントトレーニングを開始できるよう準備を進めるとともに、「おしゃべり会」を再開するなど積極的に家族支援をします。
- ④市が実施する健診等に心理士を派遣し、行政と子どもをとりまく状況を共有し連携を強化します。
- ⑤新規利用者の獲得に努め、安定した事業運営ができるようにします。
- ⑥経費の点で折り合いがつかなかった法務局跡地への移転については継続して検討します。

☆児童発達支援

【総括】

新規利用者は 20 名（前年度 16 名）、登録者数は 4 名減、延べ利用者数は 118 名減、報酬は 5.4% 減でした。コロナ感染拡大の影響もありますが、乳幼児健診で医療機関につながったケースが、そのまま医療機関の小児リハビリテーションを利用し福祉サービスにつながっていないこと、出生率の低下に伴い幼児数が減少していることも影響していると思われます。

また、個別サポート加算（I）に認定された児童が 30 名（全体の 75%）で、より手厚い療育が求められている児童の割合は増加傾向（前年度より 27.3%増）にあります。

【課題】

共働きの世帯が多く、土曜日の療育を希望する利用者が増加する一方で平日の空き枠は多く、効率的な日程調整が課題です。また、今春には 20 名以上が放課後等デイサービスに移行し、児童発達支援の登録者数は大幅に減少するため、登録者数を増やすことも課題です。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男児	18	15	0	33
女児	3	5	1	9

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	20	18	22	21	19	20	20	19	20	19	18	21	237 (236)
実人数	25	27	27	29	30	31	33	35	37	35	38	39	386 (459)
延べ利用者数	72	77	80	79	66	87	74	93	90	77	94	110	999 (1,117)
今年度稼働率(%)	75.2	88.0	77.7	77.3	78.0	82.4	73.8	86.2	77.0	75.0	91.0	91.8	81.1
前年度稼働率(%)	78.2	73.5	81.8	87.7	78.2	83.2	83.3	89.5	91.5	86.0	85.0	86.4	83.8

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業所見学	0	1	0	4	1	3	2	4	0	1	3	5	24 (14)
インテーク	1	1	2	2	1	1	3	0	4	0	1	6	22 (19)
保育所等訪問	0	1	4	1	1	1	1	5	0	0	1	0	15 (18)
個別支援会議	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	7 (5)
個別相談	0	1	2	1	1	0	1	1	1	0	1	1	10 (2)
発達検査	1	2	1	1	1	1	0	1	0	0	1	1	10 (6)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

☆放課後等デイサービス

【総括】

新規利用者は3名(前年度は1名)、登録者数は1名減、延べ利用者数は148名増、報酬は8.2%増でした。所内相談は増加しており、発達検査結果の説明も含めて保護者への丁寧な相談が求められています。

また、共働き世帯の利用が祭日に集中し、祭日の稼働率は114.6%となっています。

【課題】

長期休暇に実施する集団療育は社会性を身につけるなど、個別療育では得られない成果があります。子どもたちが楽しみながら経験を重ねるためのプログラミングなど、心理士のスキルアップも必要です。

今春には20数名が児童発達支援から移行します。卒業生を差し引いても10名以上の登録者数増になるため、利用者のニーズに応じた療育回数が確保できる体制を整える必要があります。

中学校入学後の継続利用を望む声も多く、思春期から青年期に向かう児童の心理面のフォローは継続した課題です。

《登録状況》

市別 利用者数	南あわじ市	洲本市	淡路市	計
男児	32	30	2	64
女児	14	8	0	22

《月別利用状況》 ※稼働率は、児童発達支援と放課後等デイサービスの両サービス合わせたもの

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所した日数	17	16	18	18	17	17	17	17	16	17	17	18	205 (204)
実人数	72	79	70	74	74	69	67	74	59	63	73	74	848 (817)
延べ利用者数	86	99	91	91	90	86	81	88	64	73	88	92	1029 (969)
今年度稼働率(%)	75.2	88.0	77.7	77.3	78.0	82.4	73.8	86.2	77.0	75.0	91.0	91.8	81.1
前年度稼働率(%)	78.2	73.5	81.8	87.7	78.2	83.2	83.3	89.5	91.5	86.0	85.0	86.4	83.8

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

《その他の活動状況》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業所見学	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	4 (2)
インターク	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	4 (0)
学校等訪問	1	1	1	1	0	0	2	2	1	1	2	0	12 (10)
個別支援会議	5	0	1	3	1	0	0	1	1	0	0	1	13 (17)
個別相談	0	0	3	1	1	2	1	4	0	1	1	1	15 (7)
発達検査	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	6 (7)

※合計欄下段()中の数字は前年度のもの

●地域で生活を支えるしくみをつくろう 【共同募金配分金】

■制度外サービスの創出

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	ニーズ調査の結果や、個別の相談対応を通じて把握した住民の声に対応できるようにしています。新たな活動を生み出すために、行政・ボランティア団体や関係機関と情報共有し、把握した地域課題に対応できる取り組みについて検討していきます。
---------------------------	--

■オール社協会議

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	組織内での多職種協働が図れるよう、毎週火曜日に地域別を実施しています。地図を用いてご利用者様宅や社会資源がわかるように見える化する作業や、気になるケースの共有なども行っています。地域の情報を組織の中で一元化することで、制度だけでは対応できない世帯の把握などにも努めています。
---------------------------	---

活動目標⑧「災害にも強いつながりづくりをすすめよう」

<活動の目的・ねらい>

突発的な災害が起きると日常生活への住民の不安や福祉課題が表面化し、混乱も生じます。刻一刻と情報も更新されていく中、行政やボランティア、関係団体と協働し、日頃から防災意識を高め、備えや地域での助け合いを啓発し、災害に強い地域を目指します。

●災害時に対応できるしくみをつくろう

■災害救援マニュアルの改訂

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	令和2年度から社協内防災対策班にて、2カ月に1度防災ワーキング会議を開催し、内部研修を定期的に計画・実施し、各事業所での災害対応を考える機会となっています。 9月には、『外出中』『事務所内』などの場面に合わせた災害対応についての協議を行い、12月には、被災状況を報告する情報伝達訓練を行いました。 事業所ごとの災害対策をもとに、今後は災害救援マニュアルの改定につなげていきます。
---------------------------	---

■防災訓練への参画

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	11月20日の総合防災訓練では、社会福祉法人連絡協議会などと連携し、災害ボランティアセンター設置運営訓練として受付、マッチング、送り出し、活動、報告などの訓練を実施しました。また、くらす連絡会と一緒に参加し、当事者の災害時における避難方法などについて話し合いを行いました。大規模災害が発生した際、スピーディーに対応できるよう、今後も、社会福祉法人連絡協議会などと連携しながら訓練を重ねていきたいと考えています。
---------------------------	---

●防災について考える機会をつくろう

■防災研修会の実施

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	災害時における地域の支え合い活動を支援するため、災害時の対応や、災害ボランティアセンターについての防災学習や、地域で暮らす高齢者や、障がいのある方など何かしらの支援が必要な方が安全に避難できるよう、車イス体験やアイマスク体験など地域の実情に応じた福祉学習をすすめています。
---------------------------	--

■防災カフェ

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	みどり支部運営委員会にて、伊加利地区しあわせの黄色い旗運動、個別避難計画の説明より、住民主体の地域の見守り、支え合い活動が災害時における地域の助け合い活動につながっていくプロセスを共有し、参加者が日ごろの見守り支え合い活動、見守り体制づくりにつながるきっかけづくりを目的として実施しました。54名の参加があり、事例発表を通じて日常のつながりの大切さについて共有することができました。
---------------------------	---

●「支え合い（防災）マップ」づくりに取り組もう 【会費】

■支え合い（防災）マップづくり

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	平成29年から支え合いマップづくりを推進しています。マップづくりでは、普段話す機会の少ない支え合いや防災について話し合い、防災意識を向上させるきっかけとなるように働きかけます。 これまで大きな災害が少なかった地域では防災意識が低く、どう自分ごととして考えてもらえる働きかけができるかが課題となっています。今後も、行政と連携し住民へ意識啓発を行っていくツールとして支え合い（防災）マップづくりを推進していきます。
---------------------------	--

■支え合い（防災）マップづくりの実施

月日	内 容	参加者
R4.5.17	伊加利地区地域づくり協議会・ご近所見守り推進委員会の研修として実施 ①ひとり暮らし高齢者、②気になる世帯③商店や移動販売、④ゴミステーションの場所、⑤買い物に困っているであろう世帯、⑥ゴミ出しに困っているであろう世帯、へのマーキングと情報共有	30名
R4.8.19	せいだん支部運営委員会の研修として実施 ①市の指定避難所、②災害時の危険箇所、③空き家、④ひとり暮らし高齢者、⑤気になる世帯、⑥ご近所つながりのある地域、へのマーキングと情報共有	50名
R5.3.23	市福永地区で2年ぶりのマップづくりを実施 ①前回作成したマップとの比較 ②状況が変わったところ等について話し合い ③つながりが希薄な人等、地域の課題を確認	35名

■個別避難計画作成にむけた協議の場づくり

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	災害時に高齢者や障がいのある方が安全に避難できるよう、一人ひとりの状況に応じ、地域住民が主体となって策定する「個別避難計画」について、危機管理課と協議を重ねています。 今年度は、11月に沼島地区において、市役所危機管理課、福祉課、長寿保険課、市内の居宅介護支援事業所、障がい者相談支援事業所と一緒に「個別避難計画」の策定支援を行いました。今後も地域住民や担当課と協議を重ね、地域の誰もが安心して避難でき、誰一人も見逃さない仕組みづくりをすすめていきます。
---------------------------	--

■ハザードマップ説明会への参加

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	21 市民交流センター単位で開催されたハザードマップ説明会に参加し、危機管理課との連携を強化しました。またグループワークでは、危険箇所だけではなく、安全な場所へ避難することが困難な方の避難方法について一緒に考える機会となりました。 大規模災害時、ひとりでも多くの命を救うため、地域、関係機関と協議を重ねていきます。
---------------------------	--

活動目標⑨「新しい活動を生み出そう」

<活動の目的・ねらい>

生活スタイルの変化や新型コロナウイルスの出現により、人とのつながりや活動の形が大きく変わりました。今あるつながりを切らさないように、そして地域の現状や課題を把握しながら、これまでとは違う新しい形での、つながり、支え合いづくりをすすめていきます。

●新しい活動を生み出す話し合いの場をすすめよう 【会費】

■地域福祉推進計画の周知

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	第4次地域福祉推進計画の冊子と概要版を関係機関・各種団体等へ配布しました。また、社協活動の説明等の機会に活用し、計画内容の周知を行っています。今後も計画内容に沿った話し合いの場や、南あわじ市で地域福祉を進めていくための話し合いの場づくりを進めていきます。
---------------------------	---

■地域共生社会に向けた検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域共生社会のイメージを共有するために、行政担当者と合同で研修を受講しました。先駆的な実践を学ぶことで、南あわじ市での取り組みをどのように進めていくかを協議しました。行政と協働して地域共生社会のあり方を検討していくためのキックオフができました。今後は共有したイメージを具体化できるよう、行政やさまざまな主体とともに学びと協議を重ねていきます。
---------------------------	---

■包括的支援体制に向けた検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	市役所のプロジェクトに参画し、話し合いを重ねています。行政担当者・兵庫県社協・兵庫県と4者協議の場をもち、南あわじ市での取り組みをどのように進めていくかを協議しました。地域の実態に即した体制やしくみを構築できるように、また誰もが地域で役割を持ち、活躍できる場づくりに向けて、今後も協働して取り組んでいきます。
---------------------------	--

●さまざまな人・団体との新しいつながりを広げよう

■福祉分野以外とのネットワーク強化

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域福祉の推進には、幅広い主体や社会資源がつながるしくみが必要です。具体的な取り組みには至っていませんが、今後は司法の専門職や企業、NPOなどとのネットワークを構築していけるよう取り組んでいきます。異業種交流で新たな視点を取り入れた活動を展開していきます。
---------------------------	--

■移住してきた方との地域での交流の場の検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	淡路島に移住してきた若い世代や就業者などとも協働していけるプログラムの開発等を行うために、地域での交流の場のあり方について検討していきます。
---------------------------	--

●地域の資源や情報を見える形で整理しよう

■ニーズ調査の実施

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>8月に実施した食材の無料配布事業の利用者を対象に、生活実態調査を実施しました。生活困窮者世帯が抱えている課題が明確になったことで、実態に応じた支援を地域の中で検討していくために調査結果を活用していく予定です。また、行政はじめ関係機関・団体が実施した調査やアンケート結果についても共有し、新たな活動やしくみづくりをすすめます。</p> <p>ひとりひとりの声を大切に、たすけあいが循環するしくみづくりや地域づくりを進めていきます。</p>
-----------------------------------	---

■地区カルテの作成

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>地域の情報を共有し、地域福祉活動を進めるために、地区カルテの作成に取り組んでいます。</p> <p>昨年度より実施している「オール社協会議」にて、社会資源や民生委員、ボランティアなど、各専門職が得ている地域の情報を共有し、カルテに反映して活かしていこうと考えています。</p>
-----------------------------------	---

◎「活動をすすめるための組織基盤づくり」

南あわじ市の地域福祉をすすめるため、計画的に職員を採用し配置するとともに、必要な専門性を身につけられる機会をつくります。また、役職員がともに福祉目標の実現に向けてすすめるよう、理事監事会、評議員会の活性化を図ります。

●職員の人材確保と育成をすすめます

■人員配置の検証に基づく職員採用

《職員採用状況》

採用年月日	部署	職名	氏名	雇用形態	備考
R4.4.1	地域生活支援部	コミュニティワーカー	箕浦 千夏	常勤	
R4.4.1	在宅福祉サービス部	ケアマネジャー	中野 剛仁	常勤	R4.9.30退職
R4.4.1	地域生活支援部	地域福祉課職員	島 誠	非常勤	R4.6.30退職
R4.7.19	地域生活支援部	地域福祉課職員	中野 寛晋	非常勤	
R4.7.4	在宅福祉サービス部	生活支援員	岩井百合恵	非常勤	
R4.11.1	在宅福祉サービス部	事務員	千川 愛菜	非常勤	

■研修計画に基づく研修の実施

研修班を中心に年間計画を立て、内部研修を企画・実施しています。部署を超えて共に考えたり共有したりする機会を持つことで、職員のレベルや法人内の質の向上を図っています。この内部研修以外にも、各事業所の定例会議内で研修を実施しています。

外部から届く研修の案内は全職員に周知し、上席から研修受講を指示する以外にも、自ら学びたいという意思を尊重するようにしています。「研修受講準備&報告書」のシートを用いて研修受講前には目標を事前に記入し、研修後に学んだこと・事前目標の評価・今後職務に活かせる点について記入、提出し、上席がコメントを記入して返しています。また、内部で伝達研修を行い、外部研修で受講したことを活かすこともあります。

《内部研修》

月日	研修テーマ	出席者数	場所
R4.6.10	第4次地域福祉推進計画について	25名	203会議室
R4.7.22	職業倫理とコンプライアンス（個人情報保護）	28名	203会議室
R4.9.21	災害対策研修	21名	203会議室
R4.11.25	新型コロナウイルス感染症対策研修	38名	203会議室
R5.1.27	法務局跡の活用について	24名	203会議室
R5.2.24	安全運転講習	26名	203会議室
	メンタルケアについて		
R5.3.24	権利擁護と虐待防止について	33名	203会議室

《外部研修》

月日	研修等の名称	参加者	集合・オンラインの別
R4.4.14	令和4年度社会福祉協議会新任職員研修	箕浦・中野剛	オンライン
R4.4.22	「防災と福祉の連携による個別避難計画作成促進事業」に係る実務研修	松本・濱田・中野剛・中野陽・長井	集合
R4.4.28	令和4年度社会福祉協議会新任職員研修	箕浦・中野剛	集合
R4.5.17	こども連絡会研修会	東庄・倉本・橋本・中野陽	オンライン
R4.5.17	福祉従事者新任職員研修（障害者福祉）	山口愛	オンライン
R4.5.14	「発達障がいの子への対応がグングン上達する」セミナー	初谷	オンライン
R4.5.19	令和4年度兵庫県認定調査員研修	中野剛	オンライン
R4.5.20	南あわじ市人権教育研究協議会「水平社宣言から100年～私たちがめざすもの～」	長井	集合
R4.5.25～	属性にこだわらない「中間的就労自立プログラム開発に向けた研究事業」視察研修（全3日間）	阿部会長、溝口副会長 他3名	集合
R4.5.31	令和4年度社会福祉協議会新任職員研修	箕浦・中野剛	集合
R4.6.8	淡路島の社会福祉協議会職員協議会第1回業務研究会	東庄・奥本 他8名	集合
R4.6.11	令和4年度日本臨床発達心理士会埼玉支部研修会	初谷	オンライン
R4.6.13	人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修	奥井	オンライン
R4.6.15	こども連絡会研修会	北川・藤本	集合
R4.7.1	令和4年度兵庫DWAT基礎研修	山口・森・平見・長井・ 中野剛・新地	集合
R4.7.7～8	防火管理者資格取得講習会	北川・畠中	集合
R4.7.8～9	感覚統合入門・基礎セミナー	藤本	集合
R4.7.9～	令和4年度発達障害実務者養成講座（児童期）（全2日間）	北川	オンライン
R4.7.11	令和4年度こども連絡会支援者研修会	新地・田中・中野陽・ 橋本	集合
R4.7.17	第20回全国社協職員のつどい	山口・平見・奥井 新地・川口・箕浦	オンライン
R4.7.20	淡路島の社会福祉協議会職員協議会第2回業務研究会	新地・奥本 他5名	集合
R4.7.27	自治体・支援員研修向けコンサルティング事業	江本	集合
R4.7.27～	重度訪問介護従事者養成研修（統合過程）（全3日間）	濱中	オンライン・集合
R4.8.4～5	南あわじ市債権管理研修	江本	集合
R4.8.5	兵庫県ホームヘルプ事業協会 管理者研修	森	オンライン
R4.8.19	令和4年度第1回市区町共同募金委員会担当者会議	奥本	オンライン
R4.9.6	2022年度障害者虐待対応力向上研修 虐待防止センター職員向け	平見	集合
R4.9.7～9	兵庫県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修	山口愛・藤崎	オンライン
R4.9.21	人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修	三宅	オンライン
R4.9.22	令和4年度兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修	平見・新地・田中 倉本・中野陽・橋本	オンライン

R4.10.3	2022年度障害者虐待対応力向上研修A研修	中野陽	オンライン
R4.10.3~	自治体・支援員研修向けコンサルティング事業（全3日間）	江本	集合
R4.10.6~7	令和4年度 兵庫県サービス管理責任者基礎研修	山口愛	集合
R4.10.7	令和4年度 ペアレントメンター講演会	北川・藤崎・藤本	集合
R4.10.7	令和4年度 ペアレントメンター講演会	平見・田中・倉本・中野陽・橋本	オンライン
R4.10.15	令和4年度地域リーダー対象 個別避難計画作成研修	平見	集合
R4.10.24	日常生活自立支援事業生活支援員研修会	中野寛	集合
R4.10.25	2022年度障害者虐待対応力向上研修C研修	中野陽	集合
R4.11.2~12.8	令和4年度 主任介護支援専門員更新研修	松本	オンライン
R4.11.2	令和4年度 子ども連絡会情報交換会	北川	集合
R4.11.2	令和4年度 リーダー研修（基幹相談）	平見・田中	オンライン
R4.11.6	南あわじ市医療的ケア児支援講演会	新地	集合
R4.12.5	令和4年度 特別支援教育 自立・理解推進会議	北川	集合
R4.12.8~9	令和4年度 兵庫県児童発達支援管理責任者基礎研修	藤崎	集合
R4.11.11	薬物依存症対応研修基礎研修	江本	集合
R4.11.11	指定訪問介護の理解を深めるための法令講座	池田美	オンライン
R4.11.12	セルフヘルプ体験型セミナー	平見・新地・江本・中野陽	集合
R4.11.16~	海外福祉オンラインセミナー（全3日間）	箕浦・江本	オンライン
R4.11.16	令和4年度 高次脳機能障害支援者普及研修	新地・橋本	オンライン
R4.11.22	令和4年度 兵庫県サービス管理責任者等専門コース別研修	北川・藤崎・藤本	集合
R4.11.27	第7回小児在宅医療講習会	新地	オンライン
R4.11.30	令和4年度 淡路障害者自立支援協議会 障害者理解促進研修	北川・新地・倉本・中野陽・橋本	オンライン
R4.12.14	エコシステムから見た組織診断評価セミナー	平見	集合
R4.12.15	令和4年度医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	新地	オンライン
R4.12.15	【孤立を防ぐ「地域づくり」人材養成研修】『就労支援と地域支援』	森・奥井・奥本・山本	オンライン
R4.12.26	令和4年度大規模災害を想定した三者(行政、社協、NPO等)連携訓練	長井	集合
R5.1.12~13	令和4年度 生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修	江本	オンライン
R5.1.14	これって暴力？ハラスメント？我慢して訪問するもの？オンライン研修	森・藤野	オンライン
R5.1.14	淡路島の社会福祉協議会職員協議会新年のつどい	新地・奥本 他5名	集合
R5.1.17	【孤立を防ぐ「地域づくり」人材養成研修】『全世代の活躍支援』	平見・奥井・長井	オンライン
R5.1.19	令和4年度 自殺対策における発達障害者とその家族への支援研修	倉本・中野陽	集合
R5.1.20	【孤立を防ぐ「地域づくり」人材養成研修】『若い世代のつながりづくり』	平見・奥井・長井	オンライン
R5.1.25	障がい者虐待対応力向上研修	登・畠中	オンライン
R5.1.25	「社協における生活困窮者支援体制強化（ほっとかへんネットワーク配置）事業」実施に向けた情報交換会	山口・桑田	オンライン
R5.1.26	介護職のためのセルフケア講座	堀	オンライン
R5.1.26~27	相談面接技術研修(基礎編)	中野寛	集合

R5.2.1	令和4年度 淡路市ひきこもり対策推進会議研修会	平見・奥井・江本・箕浦・谷本・川口	集合
R5.2.9	生活支援コーディネーター養成Zoomオンライン研修	江本	オンライン
R5.2.9	令和4年度 サービス提供責任者研修「精神疾患のある利用者対応のための基礎知識」	森	オンライン
R5.2.10	令和4年度 淡路地区介護保険事業所集団指導	森・松本・山本・松山・濱田	オンライン
R5.2.10	【孤立を防ぐ「地域づくり」人材養成研修】『就労支援と地域支援』	平見・奥井・長井	オンライン
R5.2.14	みちかいこ（身近+介護）ができるまで&これから～（三田市社協の実践報告）	長井・箕浦	オンライン
R5.2.15	令和4年度 兵庫県サービス管理責任者等更新研修	北川	集合
R5.2.16	サービス提供責任者のためのストレスマネジメント	森	オンライン
R5.2.17	平時と発災時をつなぐ-誰一人取り残さない福祉防災の備えを図るために	長井	オンライン
R5.2.21～	「コミュニティソーシャルワークとファンディング」基礎研修（全2日間）	奥井	オンライン
R5.2.22	令和4年度 南あわじ市在宅医療・介護連携研修会	森・松本・山本・松山・濱田	オンライン
R5.3.1	県内社協事務局長会議	平見	オンライン
R5.3.2	淡路島の社会福祉協議会職員協議会視察研修1日目	新地・奥本・谷本・箕浦	集合
R5.3.3	生活支援コーディネーターフォローアップセミナー	川口	集合
R5.3.3	南あわじ市母子保健関係者研修会	新地・田中・中野陽	集合
R5.3.9	令和4年度 介護保険サービス事業者等集団指導	森・松本	オンライン
R5.3.10	ケアプランデータ連携システム説明会	森・松本・松山・濱田	オンライン
R5.3.10	令和4年度 サービス提供責任者研修「自立支援に向けたアセスメント」	森	オンライン
R5.3.10	淡路島の社会福祉協議会職員協議会視察研修2日目	新地・川口・谷本・箕浦	集合
R5.3.13	令和4年度「社協介護・障害サービス事業職員交流・勉強会」	森	オンライン
R5.3.13	日常生活自立支援事業令和4年度第2回専門員会議	山本	集合
R5.3.15	令和4年度 淡路圏域障害福祉サービス従事者等研修	北川・森・新地・橋本	オンライン
R5.3.23	令和4年度 地域公益活動推進セミナー	平見・江本	オンライン
R5.3.30	令和4年度 BCP理解促進研修	北川・畠中	オンライン

研修・会議等の名称	内容	開催頻度等
管理職会議	各部からの報告・感染症対策や法人運営の課題を協議	月1回
オール社協会議	各支部での情報共有、個別ケースから見える地域課題等	週1回
ワーカー連携会議	各ワーカーからの報告、協議、確認等	週1回
ケアマネ会議	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケースの共有、検討	週1回
相談支援専門員会議	多職種参加によるケースの共有と困難事例の検討	週1回
ヘルパー会議	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケースの共有、検討	月1回
なでしこミーティング (児童)	運営に関すること、予約状況の確認、ケース検討等	月2回・年4回(研修)
なでしこミーティング (生活介護)	研修計画に基づく研修の実施・運営に関すること・ケース検討等	月1回

■表彰

受賞者・団体	表彰名・大会等	表彰の内容
南あわじ市社会福祉協議会	全国社会福祉協議会会長表彰 令和4年度全国社会福祉大会	社会福祉活動が特に優秀な社会福祉協議会
北川 知子	全国社会福祉協議会会長表彰（永年勤続） 令和4年度全国社会福祉大会	社協職員として30年以上従事した者
山口 勇樹	知事表彰（永年勤続） 第70回兵庫県社会福祉大会	社協職員として30年以上従事した者
北川 知子		
奥野 裕子	知事表彰（ホームヘルパー功労者） 第70回兵庫県社会福祉大会	ホームヘルパーの業務に20年以上従事し、特にすぐれた功績のあった者
神辺 喜代江		
平見 明子	県社協会長表彰（永年勤続） 第70回兵庫県社会福祉大会	社協職員として20年以上従事した者
奥井 恵子		
山本 恵子		
桑田 艶子		

■実習生の受け入れ

期間	目的	人数	活動内容
R4.7.25～R4.7.26	介護支援専門員実務者研修の一環による見学実習	1名	ケアマネジメントプロセスの見学実習
R4.8.22～R4.8.23	介護支援専門員実務者研修の一環による見学実習	1名	ケアマネジメントプロセスの見学実習

■インターンシップ制度について検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	淡路島で働きたいという学生に対して、就業経験を積む機会の創出について、3市社協協働で検討しています。
---------------------------	--

■資格取得の奨励

部署	氏名	資格名	受講日数	備考
なでしこデイサービスセンター	藤崎 亜紀子	サービス管理責任者基礎研修	5日間	
なでしこデイサービスセンター	山口 愛理	サービス管理責任者基礎研修	5日間	
なでしこデイサービスセンター	北川 知子	防火管理責任者研修	2日間	
なでしこデイサービスセンター	畠中 真代	防火管理責任者研修	2日間	

■目標シートの活用

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	自分のスキルやモチベーションを高めることを目的に、全職員が年間目標を設定して業務にあたっています。現状は各部署の管理者で目標設定時の個別面接、自己評価・上司評価後のフィードバック面接をしていますが、今後は更なる人事考課制度の構築が必要です。
---------------------------	--

■メンタルヘルスの取り組み

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	10月に全職員対象にストレスチェックを実施し、フィードバックしました。また、メンタルケアについて内部研修も実施しました。 セルフチェック・セルフケアを行うことで、自分の心の状態や健康状態をよく理解し、ストレスと上手に付き合う方法を学び、不調を未然に防げるよう取り組んでいきます。
---------------------------	--

●法人のガバナンス強化（労働環境・法人の価値・収益率）をすすめます

■関連各法を遵守した運営

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	7月に「職業倫理とコンプライアンス」をテーマとした内部研修を実施しました。所有する資格・各職種・各事業、それぞれに倫理規定や関係各法があり、それらを遵守して仕事にあたることの必要性を再確認しました。 「職業倫理」「コンプライアンス」「プライバシー保護」の関係各法の遵守について毎年1回研修を開催し、健全な法人（事業）運営を行っていきます。
---------------------------	--

■理事会、監事会、評議員会の活性化

《理事監事会》

()内数字は、監事の出席人数

R4.4.25	【報告事項】 ①職員の採用と令和4年度事務局体制について 【審議事項】 ①居宅介護支援事業所運営規定変更について ②相談支援事業所運営規定変更について ③管理職員の任免について ④評議員候補者の選任について 【協議事項】 ①表彰規定について ②共同募金配分要綱の見直しについて	15/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R4.6.9	【報告事項】 ①令和3年度一般会計収支予算第3次補正について 【審議事項】 ①令和3年度事業報告について ②令和3年度一般会計収支決算について ③監事監査結果について ④定時評議員会の日程及び審議事項について 【その他】 ①「赤い羽根ひよっこバザー」物品募集について ②兵庫県社会福祉協議会の人事について	14/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R4.8.1	【報告事項】 ①法務局跡設計等の進捗について 【審議事項】 ①生活支援員就業規則の変更について 【協議事項】 ①法務局跡改修にかかる資金計画等について 【説明・意見交換】 ①第4次地域福祉推進計画について	14/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
R4.9.26	【報告事項】 ①第1四半期活動について ②法務局跡設計等の進捗について 【協議事項】 ①法務局跡改修にかかる用途ならびに資金計画等について	12/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室

R4.12.9	【審議事項】	12/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
	①令和4年度上半期事業報告について		
	②令和4年度上半期一般会計決算報告について		
	③監事監査結果報告について		
	④令和4年度一般会計収支予算補正について		
	⑤評議員会の日程及び審議事項について		
R5.2.28	【協議事項】	14/15 (2)	南あわじ市社協 204会議室
	①理事・評議員候補者について		
	【審議事項】		
	①管理職の人事について		
	②就業規則の変更(追加)について		
R5.3.24	【協議事項】	12/15 (2)	南あわじ市社協 203会議室
	①令和5年度の組織体制について		
	②令和5年度事業計画案について		
	【審議事項】		
	①令和4年度第2次補正予算案について		
	②令和5年度事業計画案について		
	③令和5年度一般会計収支予算案について		
	④評議員会の日程及び審議事項について		
【報告事項】			
①職員の異動について			
【その他】			
①役員の改選について			

《監事監査》

月日	内容	場所
R4.6.2	<p>【総評】</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、さまざまな制限のなかで新たな事業の開発など関係諸活動を推進してきたことは大いに評価できる。今後も南あわじ市の地域福祉を推進するための役割を発揮することを期待し、次のとおり監事会としての意見を述べる。</p> <p>①活動のすべてに目的・趣旨があることを明記すること。とりわけ、協議のプロセスの中身やその方向性と成果については報告書に盛り込むこと。</p> <p>②善意銀行への金品預託やボランティア活動は、住民の社協に対する理解を評価する指標でもある。これまで以上に住民や関係機関に対し社協がすすめる地域福祉活動の価値の発信に努めること。</p> <p>③職員の育成において研修のあり方は重要である。コロナ禍によってオンラインでの研修が普及し、多くの職員が参加できる環境となったので今後は研修成果の共有や職員の習熟度を評価するといった取組みにも着手すること。</p> <p>④地域福祉を推進するうえで要となる職員が、やりがいや明確な目標をもって働けるよう、キャリアパス・資格取得支援のしくみづくりをすすめること。また、それらのしくみについては職員にわかりやすく周知すること。</p> <p>⑤事故防止やサービス改善につなげられるよう、職員が報告しやすい職場環境づくりと再発防止に向けた協議に努めること。また、それら結果を職場全体に周知すること。</p> <p>⑥利用者への訪問やアウトリーチなど、社協の業務にとって車輛による移動は必要不可欠な交通手段である。日々の職員の健康観察と安全運転に対する意識の向上に努めること。</p>	南あわじ市社協 203会議室

R4.11.22	<p>【総評】</p> <p>①第4次地域福祉推進計画に基づいて、諸事業が展開されているが、地域とのつながりの分野においてサロン活動や支部運営委員会の取り組みを一層強化すること。</p> <p>②生活のスタイルの変化や新型コロナウイルスの出現により、人とのつながりや活動の形が大きく変わったことを受け、新しい活動を生み出すための活動として、企業やNPO法人等とネットワークを構築すること。</p> <p>③業務上運転する機会が多い職場であるため、全職員を対象とした交通安全講習を実施するなど、事故防止に向けた取り組みを行うこと。</p> <p>④人材育成について、現状を分析し必要な職員数や適正な職員配置など中・長期的な計画を立てたうえで、人事考課制度の導入を検討すること。</p> <p>⑤障がい児支援がいかに必要であるかを認識し、懸案の法務局跡の改修工事の件については、あらゆる手段を検証して早期に実現できるように、組織全体で取り組むこと。</p>	南あわじ市社協 203会議室
----------	--	-------------------

《評議員会》 () の数字は役員の出席人数、【 】内数字は、オブザーバーの出席人数

月日	内容	出席者数	場所
R4.6.27	<p>【報告事項】</p> <p>①令和3年度一般会計収支予算第3次補正について</p> <p>【審議事項】</p> <p>①令和3年度事業報告について</p> <p>②令和3年度一般会計収支決算について</p> <p>③監事監査結果について</p> <p>【その他】</p> <p>①第4次地域福祉推進計画について</p>	26/29 【2】	南あわじ市社協 203会議室
R5.1.31	<p>【審議事項】</p> <p>①令和4年度上半期事業報告について</p> <p>②令和4年度上半期一般会計決算報告について</p> <p>③監事監査結果報告について</p> <p>④令和4年度一般会計収支予算補正について</p> <p>⑤理事の選任について</p>	24/29 【2】	南あわじ市社協 203会議室
R5.3.29	<p>【審議事項】</p> <p>①令和4年度第2次補正予算案について</p> <p>②令和5年度事業計画案について</p> <p>③令和5年度一般会計収支予算案について</p> <p>【報告事項】</p> <p>①職員の異動について</p> <p>【その他】</p> <p>①今後のスケジュールについて</p>	21/29 【2】	南あわじ市社協 203会議室

《評議員選任・解任委員会》

月日	内容	出席者数	場所
R4.5.30	【報告事項】評議員の解任について 【協議事項】評議員の選任について	4/5	南あわじ市社協 203会議室
R5.1.10	【報告事項】評議員の解任について 【協議事項】評議員の選任について	5/5	書面開催

《支部長会議》

月日	内容	出席者数	場所
R4.4.25	①支部運営委員会の情報共有 ②令和4年度の活動について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R4.6.9	①支部運営委員会の情報共有 ②ささえあいマップづくり(災害に備えてできること)	4/4	南あわじ市社協 202会議室
R4.8.1	①支部運営委員会の情報共有 ②共同募金配分計画について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R4.9.26	①支部運営委員会の情報共有	3/4	南あわじ市社協 203会議室
R4.12.9	①地域歳末たすけあい募金配分計画(案)について ②支部運営委員会合同研修会の実施について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R5.2.28	①支部運営委員会の情報共有 ②支部運営会合同研修会の実施について	4/4	南あわじ市社協 203会議室
R5.3.24	①支部運営委員会の情報共有 ②支部運営会合同研修会の振り返り	4/4	南あわじ市社協 203会議室

■内部牽制体制の点検

事故や苦情があったことは報告書にまとめ、管理職・部署内で共有し、同じミスを繰り返さないように改善策を検討しながら運営しています。今後もヒヤリハットも含めて軽微な事故や異常の時点で予防策を考え、重大な1件の事故を防ぐよう努めていきます。

部・所名	種別	件数	主な内容
総務・地域	苦情	2件	職員の態度、不適切な対応(電話対応)、誤配布
	事故	7件	公用車力ギ持帰り、代理納付手続き漏れ、利用者通帳返却未実施、思い込みによる誤った判断(現金受渡が出来ていない)、器物損壊(テント破損)、紛失(在庫管理が出来ていない)、車輛事故(物損)
訪問介護	苦情	2件	職員の態度(対面対応)、サービス内容(職員の不適切な対応)
	事故	13件	サービス未提供、車輛事故(物損)、職員による不慮の事故、利用者転倒・外傷
居宅介護支援	苦情	1件	訪問の約束忘れ
	事故	1件	車輛事故(物損)
相談支援	苦情	0件	
	事故	1件	車輛事故(物損)
生活介護	苦情	2件	サービス内容(白飯が不味い)、サービス内容(家族による不明外傷の発見)
	事故	24件	車椅子部品の破損、転倒、誤薬、外傷、器物破損、荷物入れ間違い、利用者間トラブル、車輛事故(物損)
児童・放デイ	苦情	0件	
	事故	1件	事業所都合休所による連絡ミス

【改善に着手した内容と成果】

※苦情・事故の有無に関係なく改善に着手したものを記載しています。

部・所名	着手した点	内容と成果
総務・地域	朝礼・終礼での確認強化 ケースの共有	利用者通帳の未返却を防止するために、従来の支援員による事業用様式の記入とは別に、専門員による確認票の記入も行い、その内容を毎日の朝礼・終礼で確認するようにした。その結果、未返却は発生していない。 意識付けや改善策の検討を目的に、苦情・事故については課内の会で共有している。
訪問介護	サービス提供責任者会議の定例化 (毎月実施) 常勤職員全員の外部研修受講	サービス提供責任者間の連携強化と組織力の向上を図るため、基本シフトの確認、サービス提供状況の確認、計画書作成等の確認、定例会の議題抽出、内部研修の内容、業務の改善等を議題に会議を開催し、その後に定例会を実施するようにしている。 オンラインによる研修が増え、研修へ参加しやすい環境になったため、職員それぞれの意向や、事業所として勤める内容で、常勤職員全員が外部研修に参加できた。

居宅介護支援	ケアマネジメント技術の向上	経験年数を重ねてきた職員が多くなっている中、ケアマネジメント技術の基礎について学び直す機会を作った。互いの技術面について確認や、個々の技術の向上など、気づきを得ることができ、実務へ繋げていくことができた。
相談支援	コロナ感染対策の徹底 各ケースについての情報共有強化	訪問時、来所時に健康チェックシートを記入することで、利用者、職員ともに感染予防の意識を高めることができ、結果、業務にあまり支障をきたさず、遂行することができた。 また、毎週の所内のミーティングにおいて、各ケースについての情報を共有することで、速やかな対応につながっているケースもある。
生活介護	コロナ感染拡大の防止強化 サービス管理責任者基礎研修の受講 手づくりおやつの日を設定 市文化展への出品と作品の活用	週1～2回定期抗原検査を実施。職員の予防意識がより向上し所内感染することなく事業が実施できた。 後任のサービス管理責任者初任者研修が終了しOJTを開始した。 月2回手づくりおやつの日を設定し食の楽しみの幅を広げた。 市の文化展へ「み～あ」の壁画を出展。作品は館内の掲示スペースに展示し社協のキャラクターの周知に役立った。
児童・放デイ	コロナ感染拡大の防止強化 児童発達支援管理責任者基礎研修の受講 旧法務局跡地の改修・移転準備	週1から2回定期抗原検査を実施。職員の予防意識がより向上し所内感染することなく事業が実施できた。 後任の児童発達支援管理責任者育成の初任者研修が終了しOJTを開始した。 改修・移転については複数回の検討を重ねたが、費用面での折り合いがつかず、継続して検討していく。

■諸規定の点検と改定

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>制度改正に伴って必要となる運営規定、重要事項説明書、契約書等の改定を行いました。(兵庫県独自基準に準拠させるための運営規定の変更、介護職員等ベースアップ等支援加算の追加) また、各事業管理職にて、各重要事項説明書等の内容が現状に沿ったものとなっているか確認をすすめています。</p>
-----------------------------------	--

■旧法務局跡の改修

<p>取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)</p>	<p>なでしこデイサービスセンターの児童発達支援・放課後等デイサービスの移転に向け、基本設計が完成し、改修にかかる資金計画まで概ね話が進んでいました。しかし、基本設計に基づいた見積り結果、諸々の建築資材の高騰等があり、当初考えていた予算を大幅に超えたため、改めて資金計画から検討し直すことになっています。</p>
-----------------------------------	--

■ボトムアップのしくみづくり

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	各部署で開催している定例会議では、職員が意見を出しやすい環境づくりに努めています。挙げた意見等は管理職会議で共有・検討をしています。また、内容によっては理事監事会へつなげるようにしています。 今後も現場の声を活かした意思決定や組織運営に努め、職員の主体性やモチベーションの向上を図ります。
---------------------------	---

●災害時にも対応できる体制づくりをすすめます

■事業継続計画（BCP）の策定

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	令和3年度の報酬改定で、各事業においてBCPの策定が義務付けられ、令和6年度までに策定が求められています。令和3年度から各管理者等で外部研修を受講しており、策定の準備をすすめています。
---------------------------	--

■災害ボランティアセンターの設置訓練

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	11月の総合防災訓練で、社会福祉法人連絡協議会などと連携し、災害ボランティアセンター設置運営訓練を行いました。コロナ禍ではありましたが、従来に近いかたちで受付、マッチング、送り出し、活動、報告など一連の流れを確認することができました。
---------------------------	---

■広域訓練や研修への参加

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	市内だけではなく、太平洋沿岸部に甚大な被害が予想される「南海トラフ地震」を想定した広域訓練や、大規模災害時における被災者支援研修などに福祉課、危機管理課とともに参加し、災害対策強化を行っていきます。
---------------------------	---

■災害救援機材・備品の点検と備蓄

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	防災対策班で、年末に備蓄品を確認し、必要な資材の補充と消火栓や避難経路などの点検を実施しています。
---------------------------	---

■DWAT について検討

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	兵庫DWAT実務者向け研修が南あわじ市で実施されました。登録者に参加を呼びかけ市内から約40名の参加がありました。研修では活動目的や基本的な視点等を学び、登録者の日頃からのつながりや学びの場の必要性を再確認しました。今後も、兵庫県との協定締結に向けて検討を重ねていきます。
---------------------------	--

◎「活動をすすめるための基盤整備と財源確保」

●組織の基盤強化をすすめます

■社協基盤強化計画の策定

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	組織の基盤強化に向け、管理職会議で都度検討しており、中・長期的な具体的な計画を策定していきます。
---------------------------	--

■サポーターの増員

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	広報「わかば」の発行、Facebookの更新、ボランティアセンターだよりの発行、ホームページを通し、社協の活動について多くの市民の方に知って頂くために広報し続けています。社協のサポーターとして地域福祉推進の活動に賛同していただける方が増えるよう、世代に応じた情報発信について検討しています。
---------------------------	---

■行政・議会とのパートナーシップ

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	地域共生社会に向けた地域づくりや参加支援について、先駆的実践を学ぶことを目的に行政担当者と合同で研修を受講しました。「孤立を防ぐ地域づくり人材養成研修」全5回への参加を通して、南あわじ市における地域づくりについて意見を交わすことができました。今後は、地域の実情に即した取り組み方法について継続して協議していきます。
---------------------------	---

■自治会、関係団体との連携

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	募金活動や会員募集など、自治会の理解がなければすすめていくことができません。社協活動を知っていただけるように積極的に広報活動を行い、理解者を増やしていけるように丁寧に取り組んでいきます。
---------------------------	---

●財源の確保につとめます

■自主財源（会費・善意銀行等）確保に向けた活動の推進

寄附者の思いを地域に返していけるように、使途を明確に示しながら理解を求めていきます。また、社協を身近に感じてもらえるように SNS やインターネットの活用も検討し、財源の確保に向けた工夫をしていく必要があります。

《一般会費》

地区	金額（円）	件数	市	金額（円）	件数
広田	476,000	952	神代	350,000	700
倭文	198,500	397	倭文	61,500	123
松帆	463,500	927	志知	89,000	178
湊	300,000	600	福良	609,000	1,830
津井	188,500	377	賀集	447,500	895
阿那賀	218,500	437	北阿万	268,000	536
伊加利	59,500	119	潮美台	215,000	430
志知	99,500	199	阿万	445,000	890
榎列	400,500	801	灘	106,000	212
八木	414,500	829	沼島	67,000	134
			計	5,881,500	12,375

《賛助・特別会費》

地区	金額（円）	件数
みどり	0	0
せいだん	20,000	2
みはら	0	0
なんだん	0	0
計	20,000	2

《共同募金運動への協力》

（円）

広域目標額	地域目標額	期間拡大目標額	地域歳末目標額	実績額
883,000	7,628,000	1,000	1,060,000	9,746,850

《募金内訳》

募金方法	実績額（円）	件 数		
一般募金	8,578,898		13,086	
戸別募金	6,068,800	戸数	12,109	戸
街頭募金	57,673	回数	14	回
法人募金	1,914,790	件数	628	件
学校募金	175,488	学校数	36	件
職域募金	151,368	職域数	229	件
イベント募金	106,128	回数	1	回
個人募金	3,500	個人数	3	件
その他募金	101,151	件数	66	件
歳末たすけあい募金	1,167,952		12,126	
戸別募金	1,054,250	戸数	12,121	戸
職域募金	112,700	件数	3	件
その他募金	1,002	件数	2	件

※期間中に受入した募金のみ記載

《戸別募金(一般募金・歳末募金)》

地区	金 額（円）	件数	市		
				516,600	1,526
広田	628,700	1,857	神代	424,200	1,452
倭文	256,600	779	倭文	56,300	248
松帆	472,600	1,802	三原志知	118,600	356
湊	409,500	1,170	福良	665,650	3,660
津井	146,700	532	賀集	626,500	1,790
阿那賀	252,000	888	北阿万	368,900	1,054
伊加利	77,900	238	潮美台	231,000	860
西淡志知	119,400	432	阿万	529,200	1,764
榎列	434,800	1,564	灘	148,400	424
八木	545,700	1,634	沼島	93,800	268

《共同募金配分金の活用（配分結果）》

事業分類		件数	金額（円）	備考
高齢者	日常生活支援	2	125,000	ひとり暮らし高齢者友愛訪問
	社会参加・まちづくり支援	3	769,583	世代間スポーツ交流事業・
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小計	5	894,583	
障害児・者	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	3	115,188	朗読研修会・体験教室他
	社会福祉施設支援	3	199,316	生活支援事業
	その他の地域福祉支援	1	10,000	コミュニケーション訓練事業
	災害対応・防災	0	0	
	小計	7	324,504	
児童・青少年	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	7	150,000	夏祭り・野営訓練他
	社会福祉施設支援	1	80,000	祖父母と楽しむ夏祭り
	その他の地域福祉支援	2	140,000	子育て支援・大鍋で囲む交流企画
	災害対応・防災	0	0	
	小計	10	370,000	
課題を抱える人	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	0	0	
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	0	0	
	災害対応・防災	0	0	
	小計	0	0	
住民その他	日常生活支援	0	0	
	社会参加・まちづくり支援	10	930,000	福祉まつり・ふれあいコンサート他
	社会福祉施設支援	0	0	
	その他の地域福祉支援	21	5,176,869	地区社協・社協事業他
	災害対応・防災	0	0	
	小計	31	6,106,869	
合計		53	7,695,956	

《兵庫県共同募金会会長感謝》

2年以上におよび功労が顕著であるもの

受賞者・団体	広田保育園
	湊幼稚園
	志知小学校
	神代小学校
	阿万小学校
	三原中学校
	西淡中学校

《善意銀行（寄附金）》

(ア) 金銭預託

No	月 日	地 区	預 託 者	預 託 内 容
1	6月24日	賀集	天理教賀治原分教会（刑部様）	地域福祉のために
2	7月13日	津井	道上成子様	亡夫供養のために
3	8月3日	賀集	川口一級建築設計事務所 川口貴弘様	地域福祉のために
4	8月5日	志知	志知サマーライブ実行委員	地域福祉のために
5	9月12日	広田	社会福祉法人 緑風会	地域福祉のために
6	10月25日	南あわじ市	辰巳会 広田中学校昭和42年卒業生	地域福祉のために
7	10月26日	南あわじ市	三原高校第7回卒業同級会（1,2組）	地域福祉のために
8	11月10日	山添	淡路小売酒販組合	地域福祉のために
9	11月11日	阿万	阿万卯辰会	子どもの健全育成のため
10	11月30日	南あわじ市	西淡民生委員児童委員協議会	地域福祉のために
11	令和5年1月11日	北阿万	北阿万申酉会	地域福祉のために
12	2月3日	市	山口 勇様	地域福祉推進のために
13	2月9日	阿万	高野山金剛講阿万支部	寒行浄財
14	3月9日	湊	南あわじ市立湊小学校	地域福祉のために
15	3月20日	神代	南あわじ市神代小学校	地域福祉のために

※上記以外に「匿名」での金銭預託が 6 件ありました。

(イ) 物品預託

品 名	上半期(件数)	下半期(件数)
プルタブ	99	42
古切手	26	64
食 材	21	33
介護用品	5	10
手作り作品	10	30
書き損じはがき・ハルマーク・プリペイドカード他	35	38
計	196	179

(ウ) 払い出し

事業名	件数	払出金額(円)	内容
歩行補助器購入助成事業 (上限5,000円)	27	135,000	高齢者の介護予防の一環として、歩行補助器購入助成を行っています。
チャイルドシート・ベビー カー購入助成事業 (上限5,000円)	59	292,445	子育て支援の一環として、チャイルドシート・ベ ビーカー・ジュニアシート購入の助成を行っていま す。
安全坊や設置事業	77	171,500	交通安全活動の一環として、学校や市民の申出に基 づき信号機のない交差点等の危険箇所へ安全坊やを 設置しています。

※上記以外にも地域からの相談や要望に応じて、必要な払い出しを行っています。

■自主財源（事業収入）確保に向けた事業の推進

事業の収支状況については、四半期ごとに実績を理事監事会で報告、共有しています。安定したサービス提供を行うためにも、実績の分析と評価を繰り返し行い、改善に向けた取り組みを共有していきます。事業運営に必要な人材確保をすすめ、適正な運営を目指します。

《介護保険サービス》

(ア) 居宅介護支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	1,631,580	1,665,540	△ 33,960
5月	1,714,930	1,636,070	78,860
6月	1,733,520	1,663,450	70,070
7月	1,732,740	1,661,600	71,140
8月	1,701,500	1,595,710	105,790
9月	1,660,600	1,635,870	24,730
10月	1,644,260	1,595,450	48,810
11月	1,584,340	1,646,560	△ 62,220
12月	1,609,620	1,595,820	13,800
1月	1,515,930	1,593,660	△ 77,730
2月	1,531,050	1,596,440	△ 65,390
3月	1,549,720	1,626,990	△ 77,270
合計	19,609,790	19,513,160	96,630

(イ) 訪問介護事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	2,086,393	2,368,047	△ 281,654
5月	2,155,470	2,373,490	△ 218,020
6月	2,239,502	2,540,156	△ 300,654
7月	2,349,776	2,302,644	47,132
8月	2,142,523	2,160,779	△ 18,256
9月	2,113,315	2,102,189	11,126
10月	2,243,849	2,136,687	107,162
11月	2,150,791	2,176,548	△ 25,757
12月	2,144,365	2,111,073	33,292
1月	1,926,462	2,039,512	△ 113,050
2月	1,859,181	2,066,044	△ 206,863
3月	2,198,959	2,264,950	△ 65,991
合計	25,610,586	26,642,119	△ 1,031,533

《障害福祉サービス》

(ア) 居宅介護等事業(ヘルプ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	2,083,661	2,021,107	62,554
5月	2,233,707	1,956,158	277,549
6月	2,149,783	2,097,197	52,586
7月	2,221,253	2,057,092	164,161
8月	2,288,937	2,036,884	252,053
9月	2,089,633	2,027,512	62,121
10月	2,188,035	2,010,469	177,566
11月	2,227,081	2,025,039	202,042
12月	2,231,254	2,120,279	110,975
1月	1,977,611	1,946,894	30,717
2月	2,141,419	1,931,554	209,865
3月	2,406,826	2,246,960	159,866
合計	26,239,200	24,477,145	1,762,055

(イ) 相談支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	1,464,620	1,304,810	159,810
5月	1,231,040	1,126,360	104,680
6月	1,040,360	810,710	229,650
7月	1,006,630	980,800	25,830
8月	1,493,600	1,150,330	343,270
9月	814,180	839,190	△ 25,010
10月	1,225,070	1,108,160	116,910
11月	1,453,970	1,154,290	299,680
12月	1,391,880	1,185,040	206,840
1月	996,080	1,183,330	△ 187,250
2月	1,136,640	996,290	140,350
3月	1,200,100	1,047,280	152,820
合計	14,454,170	12,886,590	1,567,580

(ウ) 移動支援事業

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	15,090	19,790	△ 4,700
5月	20,130	11,970	8,160
6月	14,625	22,360	△ 7,735
7月	29,065	14,290	14,775
8月	10,925	11,050	△ 125
9月	6,885	13,490	△ 6,605
10月	7,560	25,550	△ 17,990
11月	15,660	14,190	1,470
12月	17,270	27,050	△ 9,780
1月	11,430	12,690	△ 1,260
2月	10,685	11,070	△ 385
3月	15,245	13,860	1,385
合計	174,570	197,360	△ 22,790

(工) 生活介護(なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	3,058,180	3,378,679	△ 320,499
5月	2,728,590	2,787,576	△ 58,986
6月	3,367,520	3,320,409	47,111
7月	2,838,730	3,276,351	△ 437,621
8月	2,326,140	2,393,666	△ 67,526
9月	3,037,500	3,088,858	△ 51,358
10月	2,978,690	3,121,966	△ 143,276
11月	2,685,580	3,194,560	△ 508,980
12月	2,923,710	3,014,750	△ 91,040
1月	2,320,220	2,431,340	△ 111,120
2月	2,857,640	2,719,330	138,310
3月	3,313,080	3,213,470	99,610
合計	34,435,580	35,940,955	△ 1,505,375

(オ) 児童発達支援 (なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	912,182	1,044,440	△ 132,258
5月	979,940	891,410	88,530
6月	1,020,401	1,176,661	△ 156,260
7月	1,003,070	1,208,957	△ 205,887
8月	851,653	908,896	△ 57,243
9月	1,102,758	1,186,210	△ 83,452
10月	961,710	1,112,883	△ 151,173
11月	1,211,226	1,186,596	24,630
12月	1,167,282	1,279,030	△ 111,748
1月	1,000,462	1,149,174	△ 148,712
2月	1,224,672	1,207,938	16,734
3月	1,427,040	1,237,261	189,779
合計	12,862,396	13,589,456	△ 727,060

(カ) 放課後等デイサービス (なでしこ)

◆月別介護報酬の状況

(単位：円)

月	今年度	前年度	比較
4月	771,053	734,166	36,887
5月	864,088	628,357	235,731
6月	774,773	703,313	71,460
7月	824,488	833,620	△ 9,132
8月	873,301	568,019	305,282
9月	749,513	752,060	△ 2,547
10月	712,309	710,423	1,886
11月	811,082	804,855	6,227
12月	574,032	682,302	△ 108,270
1月	657,041	697,677	△ 40,636
2月	781,224	622,206	159,018
3月	841,772	800,616	41,156
合計	9,234,676	8,537,614	697,062

■公費財源ルールづくりに向けた協議の本格化

補助、受託事業の目的を再確認しながら、組織運営に必要な財源が確保できるように行政に働きかけていきます。継続的な協議を行えていない現状であり、活動の効果や成果を伝えるとともに、見えてきた課題を共有し共に検討していける場づくりをすすめていきます。

《補助金》

(単位：円)

名称	今年度	前年度	比較
福祉コミュニティづくり推進事業(市)	21,500,000	21,500,000	0
ひょうご災害ボランティア活動サポート事業補助金(県)	1,000,000	1,000,000	0
ボランティア活動支援事業(市)	1,000,000	1,000,000	0
みんなの食堂事業(市)	0	1,087,000	△ 1,087,000
障がい者交流事業補助金(市)	300,000	91,000	209,000
音声パソコン教室補助金(市)	200,000	187,000	13,000
フードサポート体制整備補助金(県)	200,000	0	200,000
支援が必要な感染高齢・障害者に対するフォローアップ体制強化事業補助金(県)	1,255,000	0	1,255,000
障害サービス事業者に対するサービス継続支援事業補助金(県)	152,000	0	152,000
原油価格・物価高騰対策一時支援補助金(県)	79,000	0	79,000
フードライブスタートアップ事業補助金(県)	4,000	0	4,000
合計	25,690,000	24,865,000	825,000

《受託金》

(単位：円)

名称	今年度	前年度	比較
福祉サービス利用援助事業	2,448,000	2,106,000	342,000
生活福祉資金貸付事業	1,205,947	1,096,447	109,500
共助の基盤づくり事業	3,998,500	3,998,500	0
生活困窮者自立相談支援事業	7,499,800	0	7,499,800
第2層生活支援体制整備事業	8,000,000	8,000,000	0
相談支援事業受託金収入	6,665,500	6,665,500	0
基幹相談支援事業受託金収入	2,230,000	2,230,000	0
要介護認定調査事業	110,000	132,000	△ 22,000
介護予防支援事業	220,100	225,780	△ 5,680
障害程度区分認定調査受託金	176,000	158,400	17,600
合計	32,553,847	24,612,627	7,941,220

■助成事業の活用

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	民間団体助成金の情報は積極的に得ています。 助成金の活用実績はありません。
---------------------------	--

■クラウドファンディングなど新たな財源確保

取り組み内容 (成果・課題・今後の方向性等)	「コミュニティソーシャルワークとファンドレイジング」基礎研修に参加し、クラウドファンディングも含めた民間財源の獲得・活用への取組みが急務であることを学びました。今後の組織運営には、自ら運営強化に使える自由度が高い民間財源の確保について検討していくことが必要です。
---------------------------	---

■職員配置（3月31日現在）

職 種	常勤	常勤嘱託	パート	採用人数	退職人数
総務	2	1			
コミュニティワーカー	8 (3)	1		1	
生活困窮者自立（主任）相談員	(1)				
生活支援コーディネーター		2 (1)			
ボランティアコーディネーター	(1)				
介護支援専門員	3	(1)		1	1
訪問介護管理者	1				
訪問介護員	5	1	14 (1)		1
相談支援専門員	4 (1)				
児童発達支援管理責任者		1			
サービス管理責任者	1				
児童指導員	3				
看護師			2(2)		
生活支援員		(1)	11(2)	1	
栄養士			1		
調理員		(2)			
運転員			2		
市役所派遣	1				
日常生活自立支援事業生活支援員 他	1		7(1)	3	1
実数	29	6	37	6	3

※職種は主な業務でカウント、（ ）中数字は兼務の人数。※採用、退職は今年度中における数を記載。